

# IR イントロダクション

## - 事業概要とビジネスモデルについて -

---

2023年9月期第1四半期

2023年2月14日

**GMO** PAYMENT GATEWAY

# 0. At a Glance

## 当社ビジネスモデルの特徴、持続的成長のメカニズム

### 市場

- 裾野が広く成長余地の大きい決済市場
  - ✓ 商取引において必ず発生し継続
  - ✓ EC化率（日**9%**/欧米**~30%**）
  - ✓ キャッシュレス化率（日**33%**/欧米**~60%**）
  - ✓ FinTech、DX

### ポジショニング

- リーディングプレイヤー
  - ✓ GMV **11.3兆円**（22年9月期）
  - ✓ 売上 **502億円**（22年9月期）
  - ✓ 従業員数 **799名**（22年9月末）
- 高い参入障壁

### 提供価値

- 決済+αを通じた、
  - ✓ 成長支援、業務革新（toB）
  - ✓ 利便性向上（toC）
  - ✓ 脱炭素、金融包摂（toSociety）

### 優位性

- 営業力、開発力、サポート力、信頼性
- スケールメリット
- 独自のアプリケーション
- 連結経営による多角化（対面、後払い、BaaS支援等）

### 顧客基盤

- クロスインダストリー
- 成長力の高い業界リーダー
- 公共セクター

### 収益モデル

- ストック&トランザクション
  - ✓ 成長性と安定性の両立
- 還流モデル（顧客の成長＝決済増加）
- 高い営業利益率（**30%以上**）
- 低い解約率

### 成長戦略

- 事業領域の拡大
  - ✓ クレカ決済⇒マルチ決済⇒対面⇒FinTech⇒グローバル⇒DX
- 大手顧客への高付加価値提供による案件大型化

### 経営規律

- 17期**連続増収増益、業績目標達成
- 成果業績に応じた報酬
- 起業、事業化、経営（0⇒10⇒100）の経験豊富なリーダシップチーム

**1 事業概要** p.4

2 注力分野 p.18

3 参考資料 p.37

本資料における表記の定義

GMO-PG : GMOペイメントゲートウェイ、GMO-EP : GMOイプシロン、  
GMO-MR : GMO医療予約技術研究所、GMO-PS : GMOペイメントサービス、  
GMO-FG : GMOフィナンシャルゲート、GMO-CAS : GMOカードシステム  
PF : プラットフォーム

# 1.1 成長の軌跡

## 成長の持続性を重視した経営方針の成果



稼働店舗数 ※3,4	年間決済処理件数 ※3	年間決済処理金額 ※3
147,204店	52.0億件	12.2兆円

(※1) 2020年9月期にMACROKIOSK社が連結除外されたため、売上収益、営業利益、及びEBITDAは非継続事業を除いた継続事業の金額を表示

(※2) EBITDAについて、J-GAAPにおいては営業利益と減価償却費、のれん償却額の合計値、IFRSにおいては営業利益と減価償却費の合計値

(※3) 稼働店舗数はGMO-PG・EP、決済処理件数・金額はGMO-PG・EP・PS・FG、うちオンライン決済はGMO-PG・EP・PS

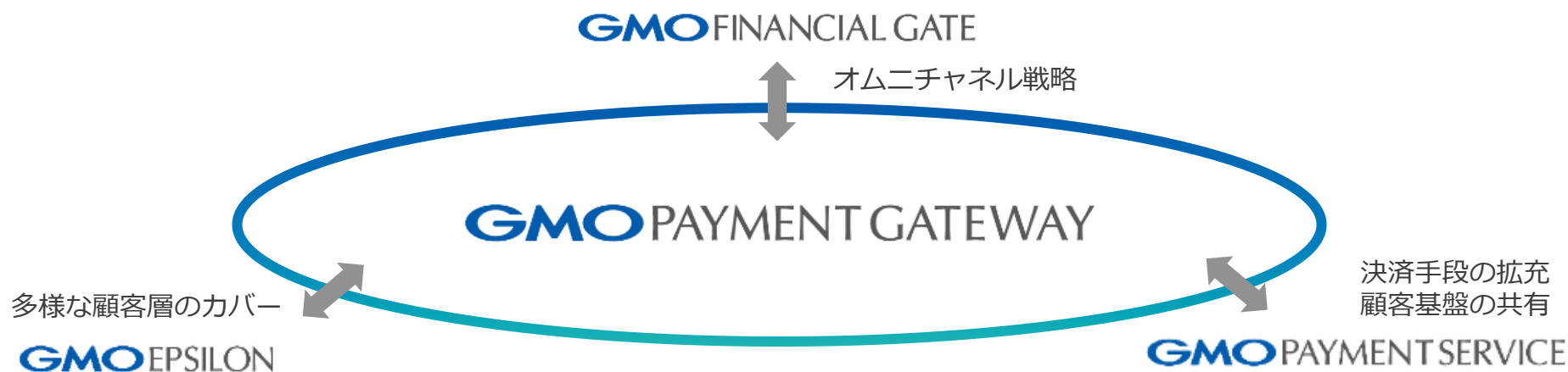
稼働店舗数は2022年12月末時点、年間決済処理件数および年間決済処理金額は2022年1月～2022年12月の数値

年間決済処理件数および年間決済処理金額はGMO-FGにおける決済を含む。

(※4) 稼働店舗数は22/2Qより計上基準を変更。特定案件及びfincode byGMOの店舗数を除く。当該案件を含む同時点の稼働店舗数は502,160店（前年同期比+37.6%）

## 1.2 連結経営

主要各社の事業環境に応じ緩急をつけた健全な業務運営によって、  
連結企業集団全体の安定的な成長を実現



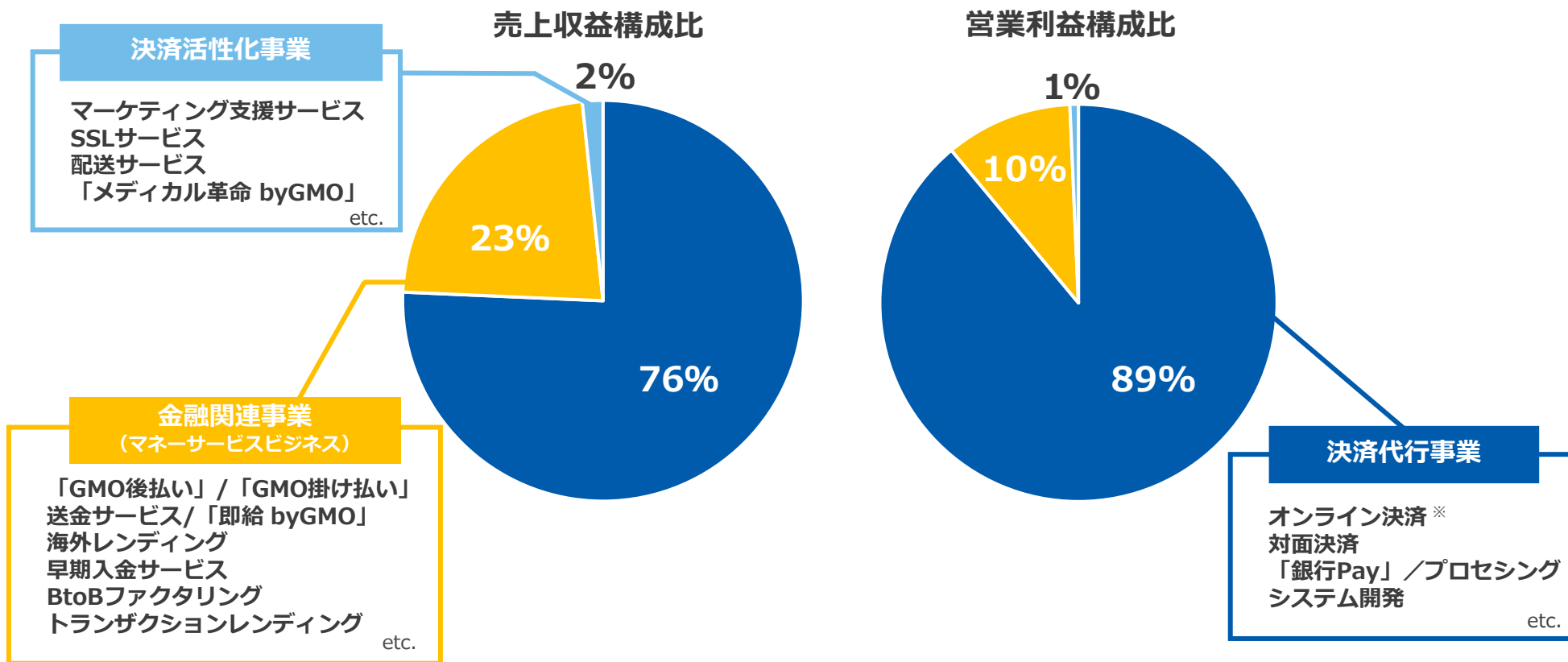
経営理念・企業文化の共有、連結企業集団一体のリソースアロケーション

	GMO-PG	GMO-EP	GMO-FG	GMO-PS
主要事業	決済代行業業			後払い決済事業
	オンライン		対面	オンライン
顧客	自治体、大手～中堅企業	ロングテール	対面店舗、無人機器事業者	EC事業者、消費者
	非物販、物販	物販中心	非物販、物販	物販中心

# 1.3 3つの事業セグメント

決済代行業を軸に周辺事業を展開し、営業利益25%以上成長を継続

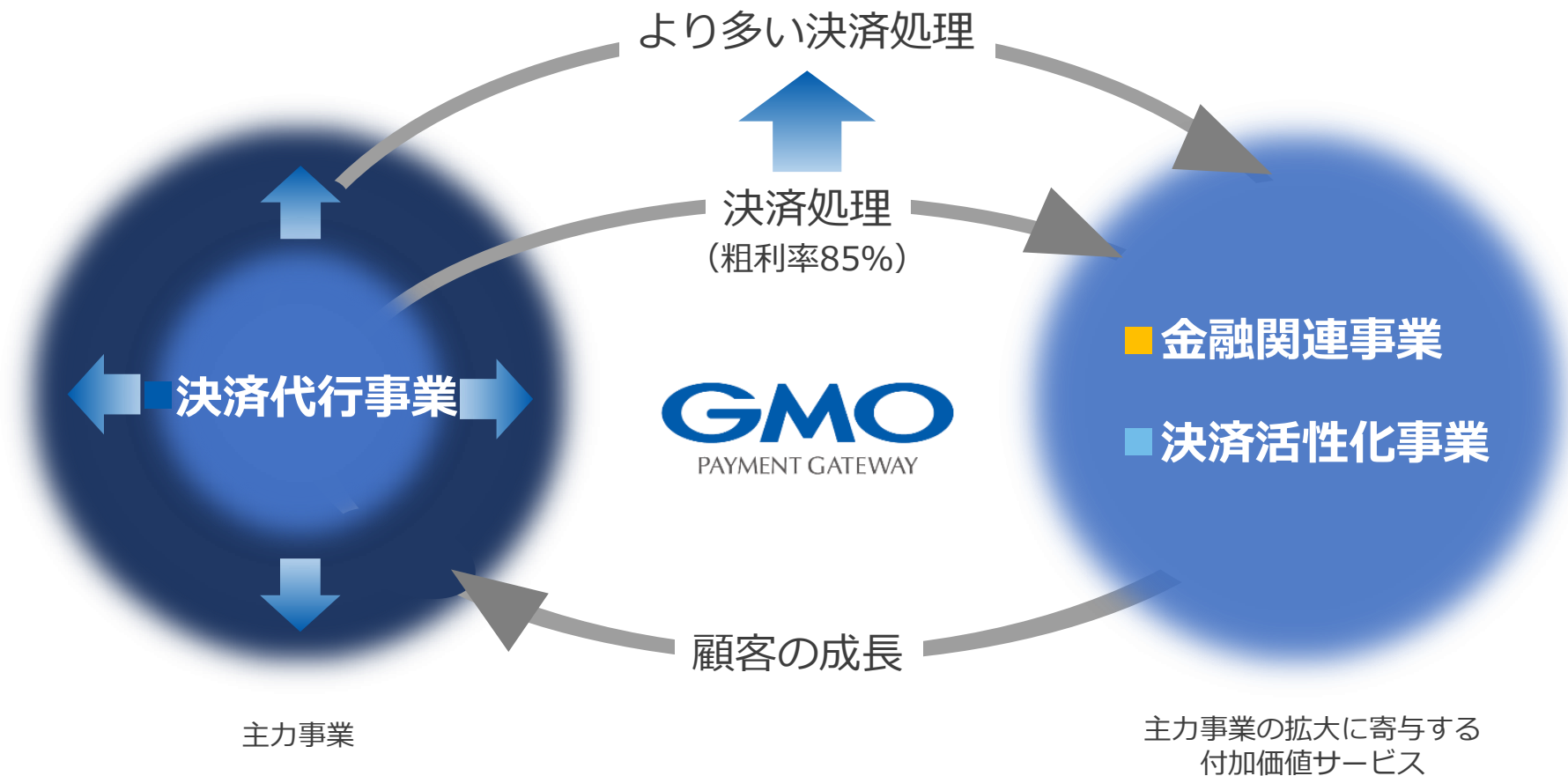
(2023年9月期第1四半期実績)



※ オンライン決済：都度課金、継続課金、Z.com Payment (海外現地向け決済サービス)

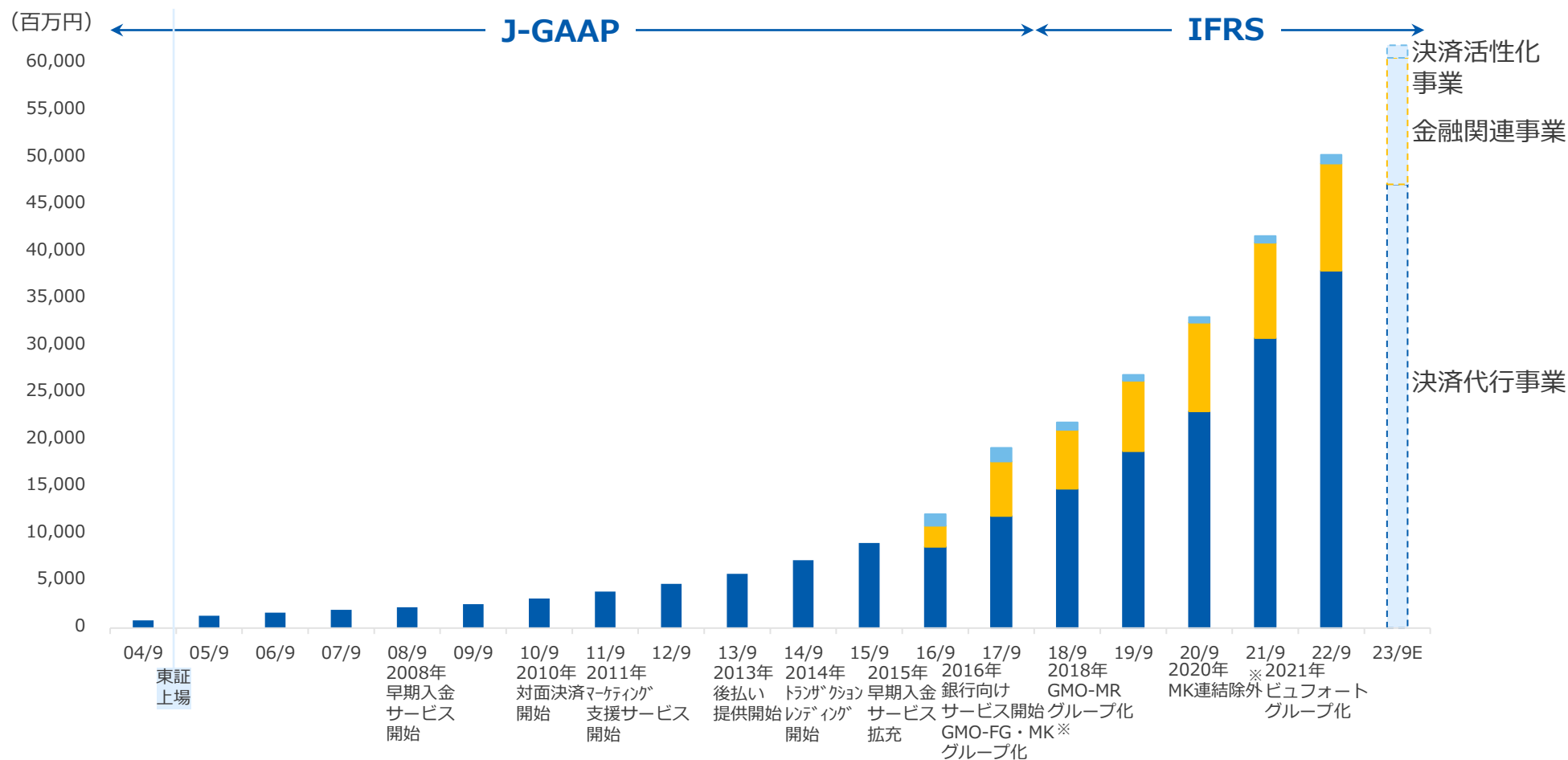
# 1.4 還流モデル

付加価値サービスが主力事業に還流し、拡大を続けるエコシステム



# 1.5 セグメント別売上推移

## 決済代行・金融関連・決済活性化の3セグメントで事業展開

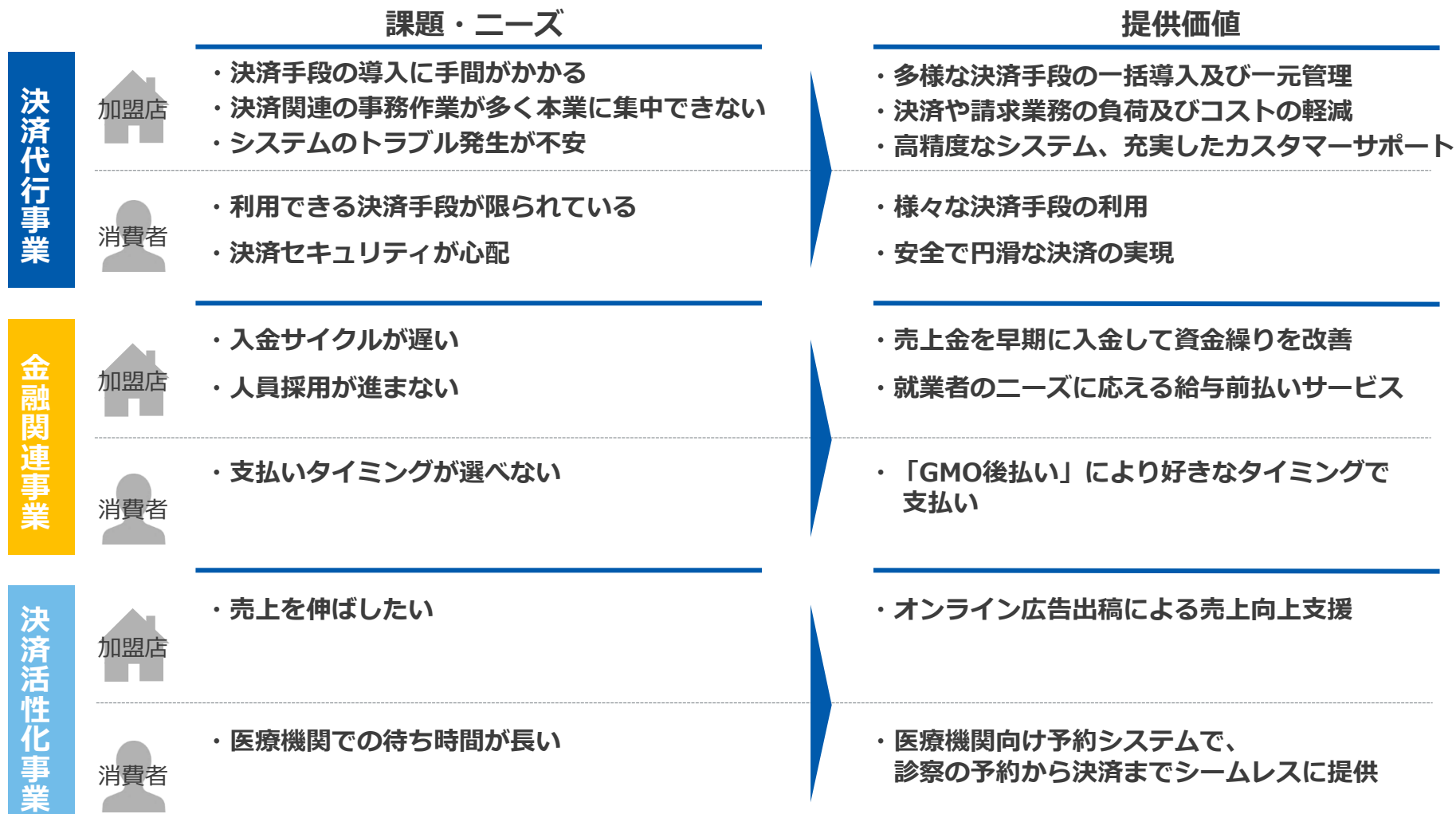


※2015年9月期まで決済代行事業のみを行う単一事業会社、2016年9月期よりセグメント開示を開始。MK：MACROKIOSK社  
2020年9月期にMACROKIOSK社が連結除外されたため、非継続事業を除いた継続事業のセグメント別売上収益を表示



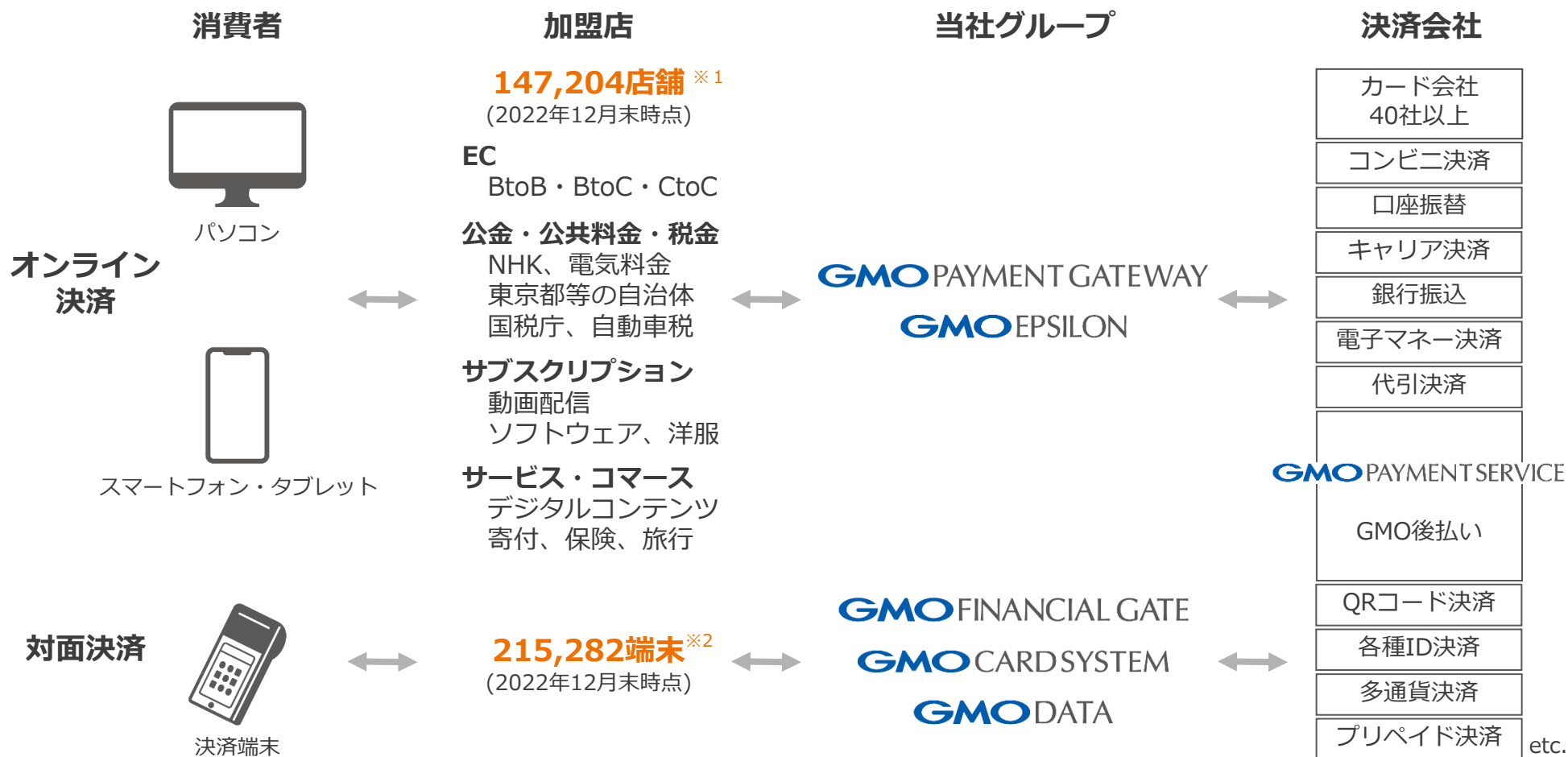
# 1.6 当社の提供価値

## 顧客ニーズに総合的に応える事業及びサービス



# 1.7 当社グループの立ち位置

## 加盟店と各決済会社との“契約”“決済情報”“お金のやりとり”を繋ぐ



※1 22/2Qより稼働店舗数の計上基準を変更。稼働店舗数は特定案件及びfincode byGMOの店舗数を除く。当該案件を含む2022年12月末時点の稼働店舗数は502,160店 (前年同期比+37.6%)

※2 稼働端末数：2021年9月期より提携先にて販売した端末及び組込型端末も含んだ稼働端末数を開示 (前年同期比+44.3%)

# 1.8 決済代行事業：クレジットカードの収益モデル

## 収益モデルを加盟店の規模・形態別に設定

### ■ 4種類の収益（ビジネスモデル）

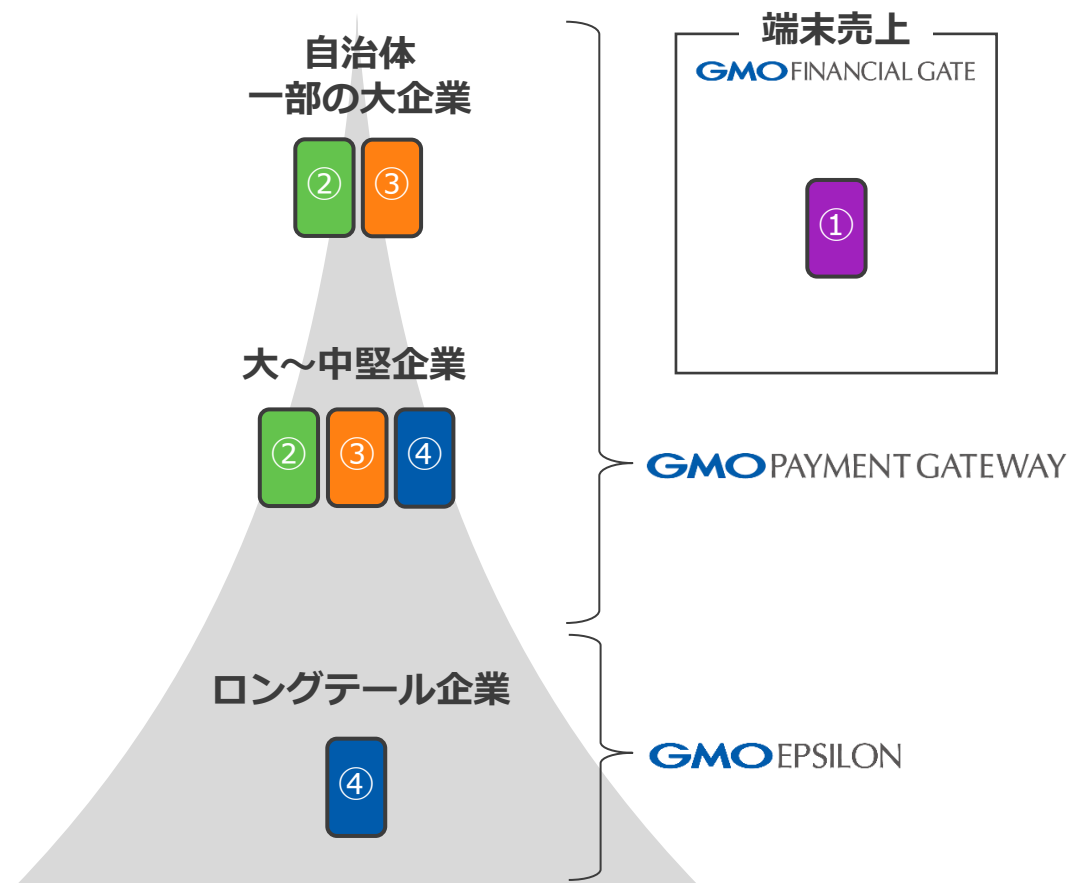
**① イニシャル（イニシャル売上）**  
端末売上  
係数：端末販売数  
売上：端末販売数 × ○円 / 導入時

**② ストック（固定費売上）**  
定額月次固定費  
係数：稼動加盟店数  
売上：稼動加盟店数 × ○円

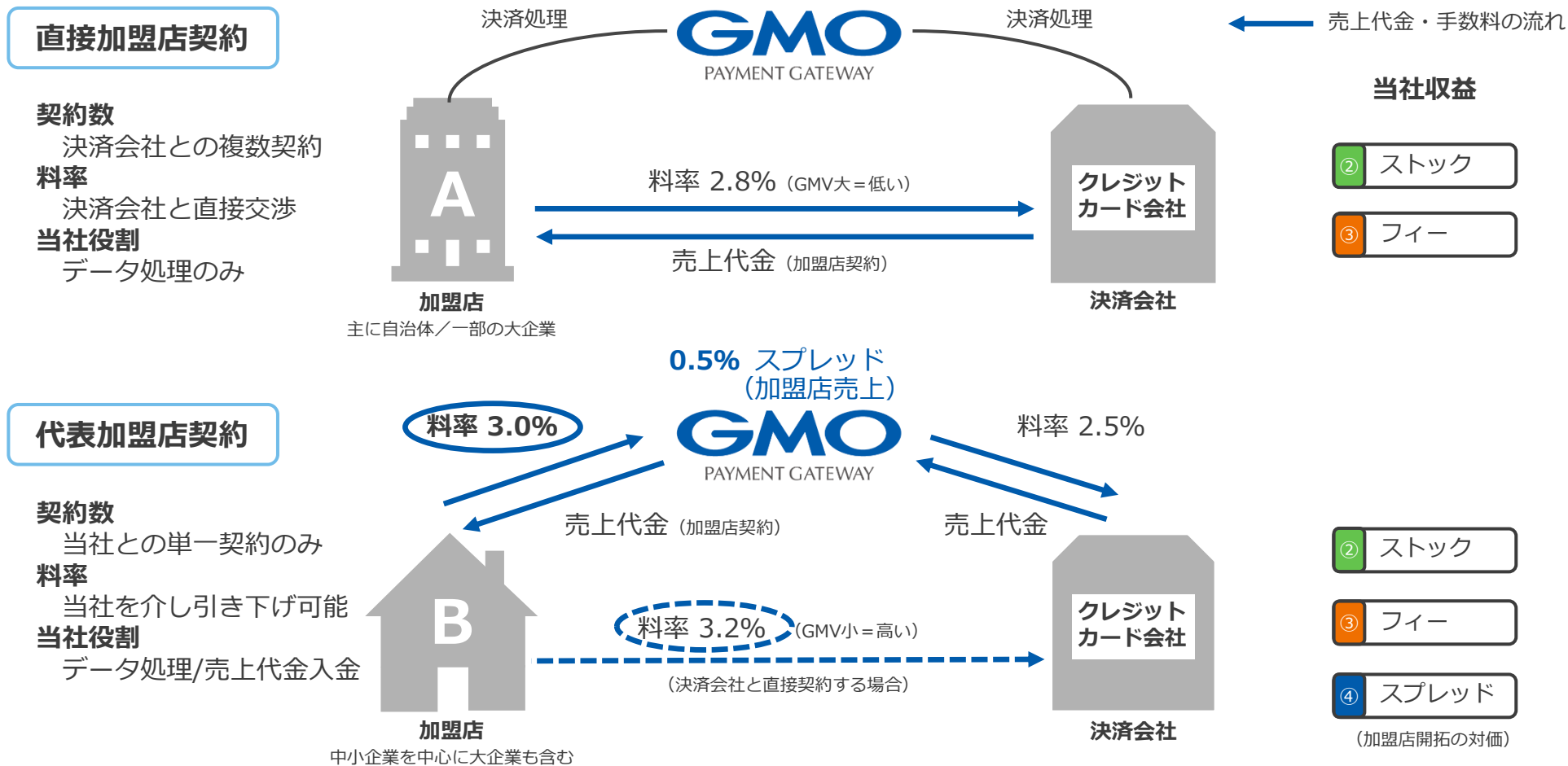
**③ フィー（処理料売上）**  
決済処理件数に応じた金額  
係数：決済処理件数  
売上：決済処理件数 × ○円

**④ スプレッド（加盟店売上）**  
決済処理金額に応じた課金  
係数：決済処理金額  
売上：決済処理金額 × ○%

### ■ 加盟店の規模・形態に応じた収益モデル



# 1.9 決済代行事業：2種類の契約形態

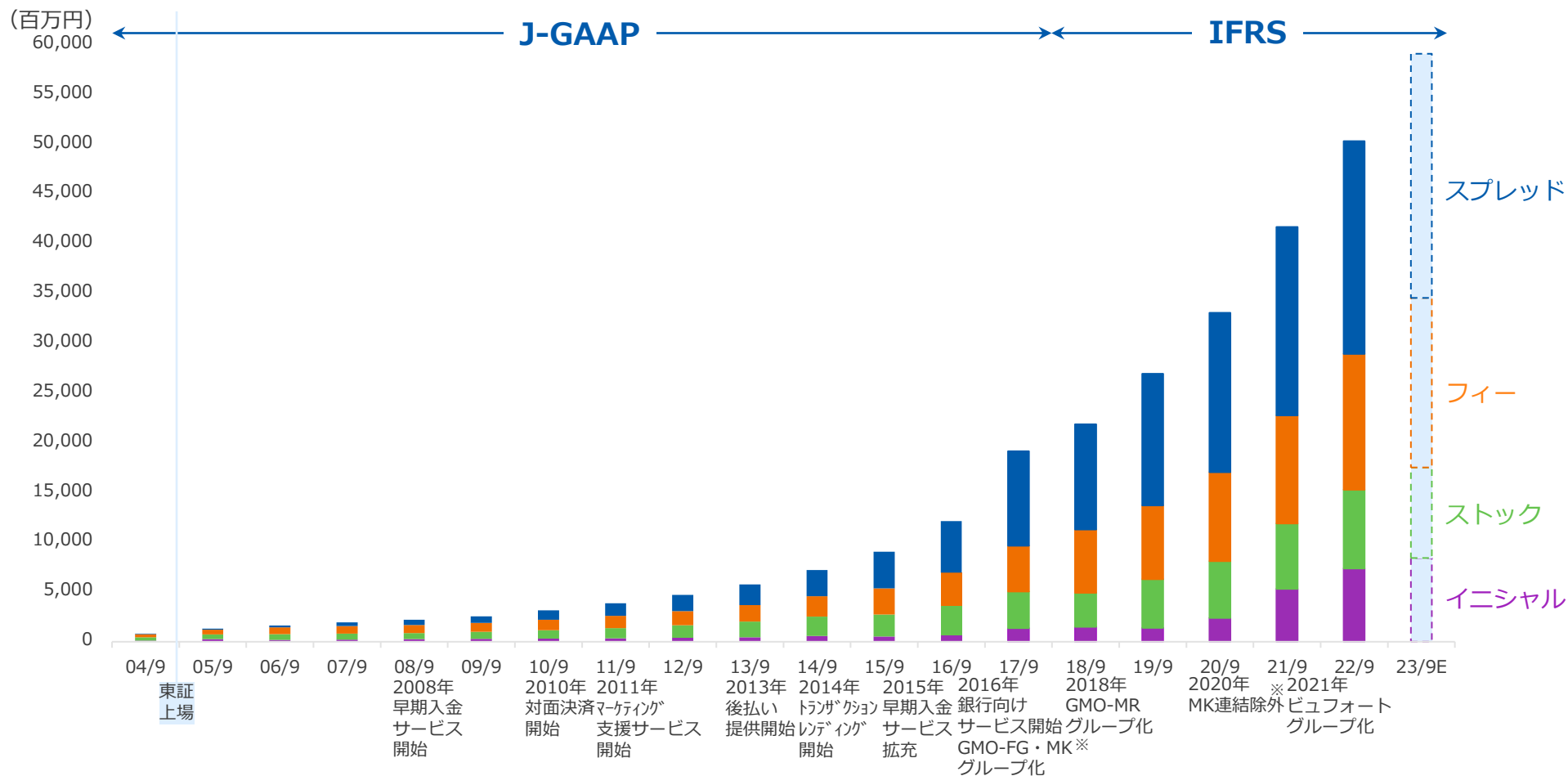


※料率数値はスキームを理解しやすくするための参考値

※当図は当社のクレジットカード契約の形態を示すもの。GMOイブシロンはスプレッド収益のみ。(p.11参照)

# 1.10 ビジネスモデル別売上推移

## 各種施策によりバランスのとれた売上成長を目指す



※MK : MACROKIOSK社

※IFRS会計基準適用のため、2018年9月期よりマーケティング支援サービス（ストック）とファイナンスリース（スプレッド）の売上計上基準がグロスからネットに変更。2020年9月期にMACROKIOSK社が連結除外されたため、非継続事業を除いた継続事業のビジネスモデル別売上収益を表示

# 1.11 ビジネスモデル・セグメント・サービスの整理

## 4つのビジネスモデル、3つのセグメントの区分

イニシャル (イニシャル売上)	オンライン決済 ※
	対面決済
	SSLサービス
ストック (固定費売上)	オンライン決済
	対面決済
	「銀行Pay」 / プロセッシング / 「GCP」 ※
	システム開発
	マーケティング支援サービス 「メディカル革命 byGMO」
フィー (処理料売上)	オンライン決済
	対面決済
	「GMO後払い」 / 「GMO掛け払い」
	送金サービス / 「即給 byGMO」
	配送サービス 「メディカル革命 byGMO」
スプレッド (加盟店売上)	オンライン決済 / 「fincode byGMO」
	対面決済
	「GMO後払い」 / 「GMO掛け払い」
	海外レンディング
	早期入金サービス
	BtoBファクタリング トランザクションレンディング

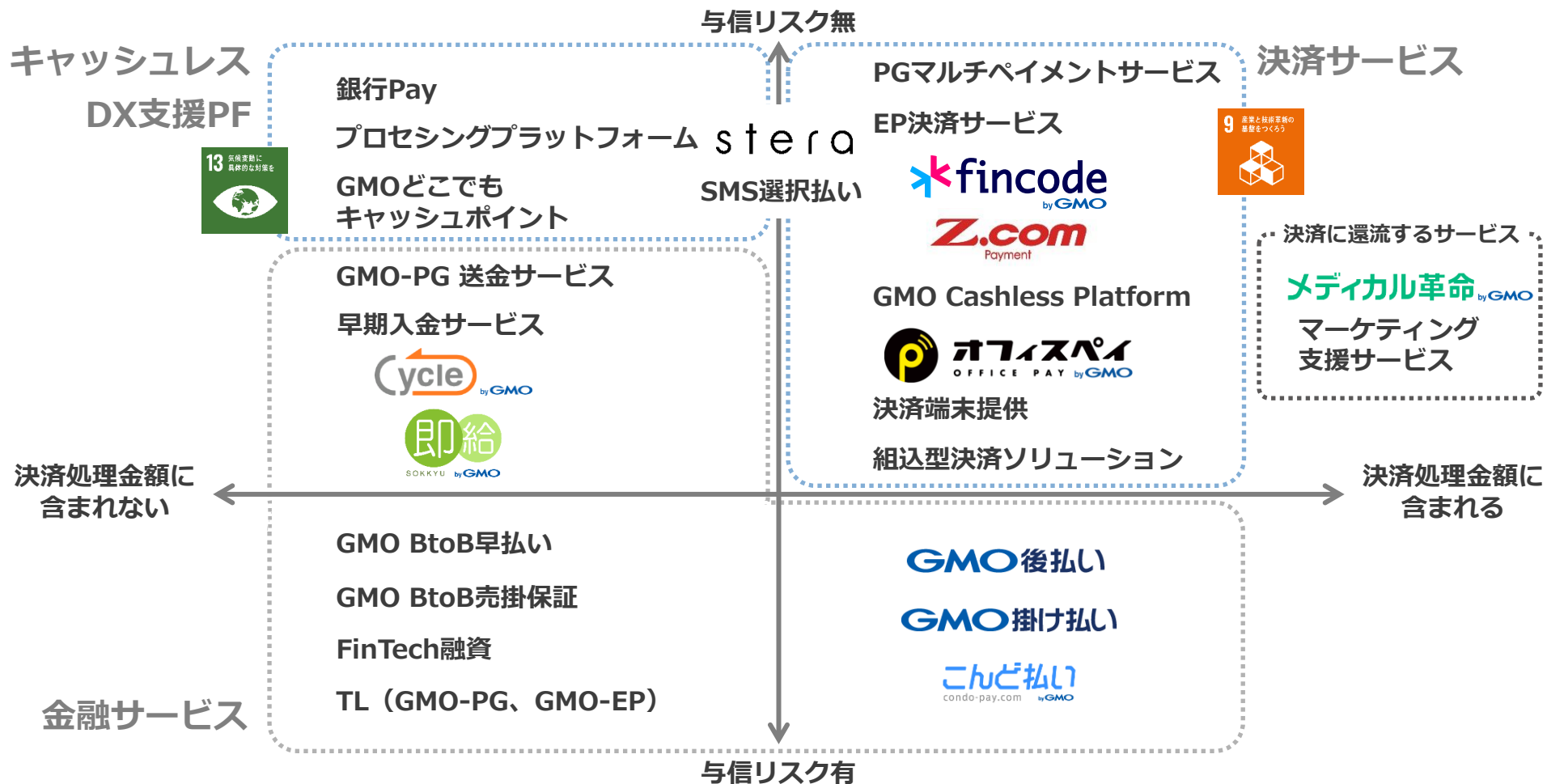
### ■セグメント

決済代行業業	オンライン決済 ※ / 「fincode byGMO」
	対面決済
	「銀行Pay」 / プロセッシング / 「GCP」 ※
金融関連事業 (マネーサービスビジネス)	システム開発
	「GMO後払い」 / 「GMO掛け払い」
	送金サービス / 「即給 byGMO」
	海外レンディング
	早期入金サービス
決済活性化事業	BtoBファクタリング
	トランザクションレンディング
	マーケティング支援サービス
	SSLサービス
	配送サービス 「メディカル革命 byGMO」

※オンライン決済：都度課金、継続課金、Z.com Payment（海外現地向け決済サービス）、GCP：GMO Cashless Platform

# 1.12 プロダクトマップ

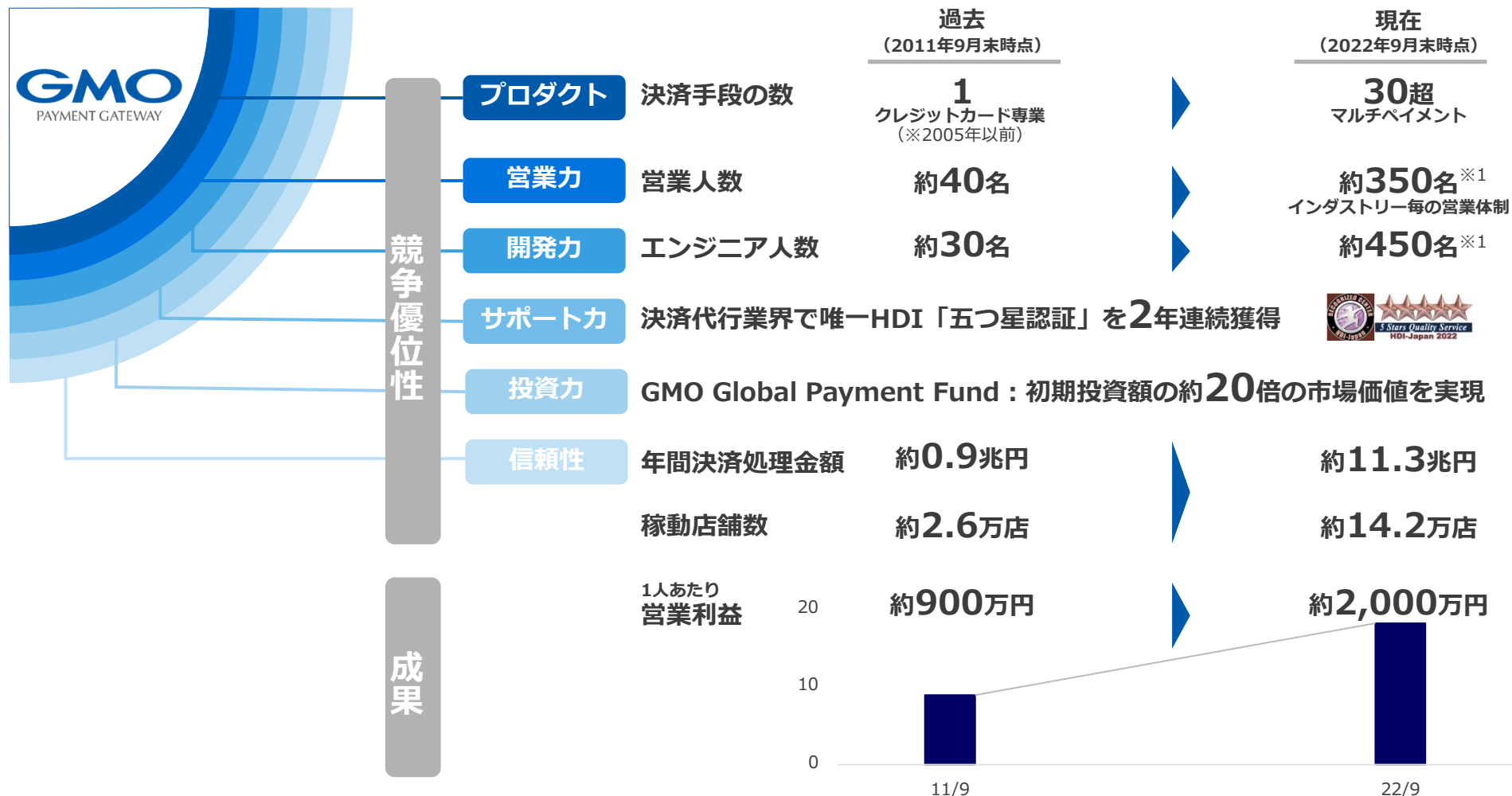
## 当社の「決済」定義 ; お金の流れをデジタル化するもの



※ TL : トランザクションレンディング

# 1.13 競争優位性とその成果


## 顧客に提供する価値を拡大し、顧客の成長に貢献



※1 営業人数及びエンジニア人数は、GMO-PG連結企業集団のパートナー及び外部協業者を含む

※2 HDI : ITサポートサービスにおける世界最大のメンバーシップ団体





1	事業概要	p.4
2	<b>注力分野</b>	<b>p.18</b>
3	参考資料	p.37

## 2.1 市場規模（TAM）の拡大と利益目標

巨大なマーケットで事業領域を拡大し、2025年営業利益250億円達成へ

■ 立脚市場におけるTAM・GMV<sup>※1</sup>・営業利益目標と展開する重点施策

立脚市場	広義EC P.22-23		FinTech P.24-27		BaaS <sup>※2</sup> P.28-29		対面・IoT P.29-31		グローバル P.32-33	
	2020	2025	2020	2025	2020	2025	2020	2025	2020	2025
TAM (兆円)	20 (BtoC EC)	45	1 (後払い)	3	2	2~	87	118	50	50~
	352 (BtoB EC)	408~	2.5 (早期入金・TL)	8	(金融機関のシステム投資額)		(対面キャッシュレス)		(海外レンディング)	
GMV (兆円)	5	13	220 (給与振込市場)	220~	—	—	—	—	1	5
営業利益 (億円)	75	180~220	—	—	—	—	—	—	—	—
展開する重点施策	DXプラットフォーム GMP <sup>※4</sup> 「fincode byGMO」		後払い/掛け払い BNPL 「即給 byGMO」		「GMO-PG プロセッシング プラットフォーム」		次世代決済 プラットフォーム 無人 (IoT) 決済		FinTech投融資	

※1 TAM・GMV・営業利益数値は当社予測及び目標、小数点以下四捨五入の概算値。FinTechとグローバルの営業利益数値には重複有。対面の営業利益はGMO-FGグループ以外も含む  
TAM：Total Addressable Market、BaaS：Bank as a Service、GMV：決済処理金額

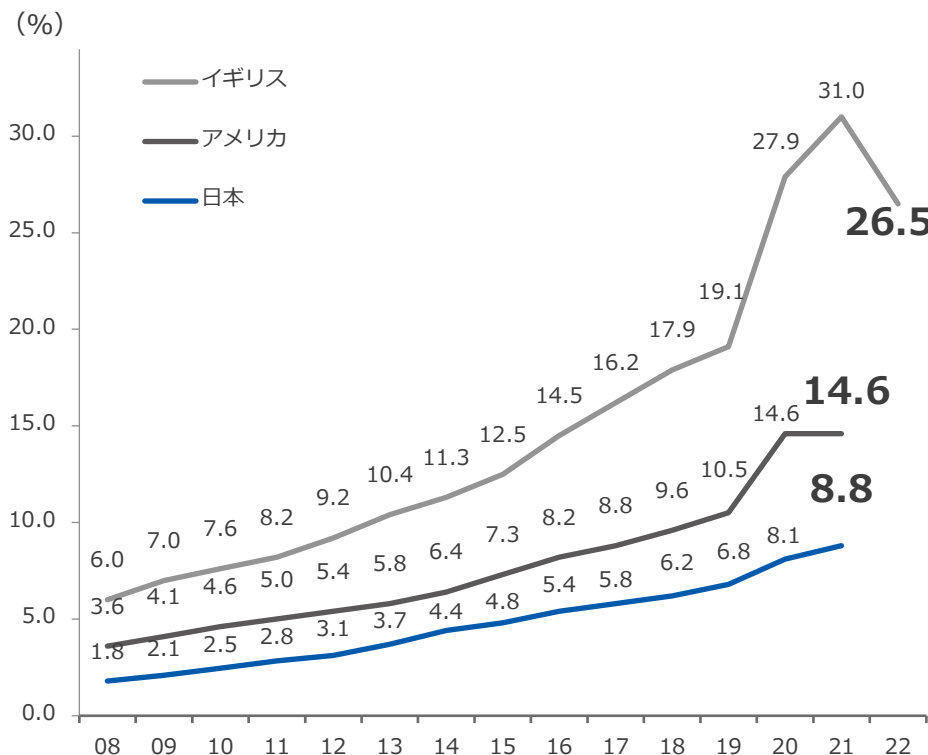
※2 BaaS：Embedded Finance（埋込み型金融）含む

※3 グローバルの営業利益2020年実績はFinTechに含む ※4 GMP（グローバルメジャープレイヤー）：世界中でITを活用するサービスを提供する大企業

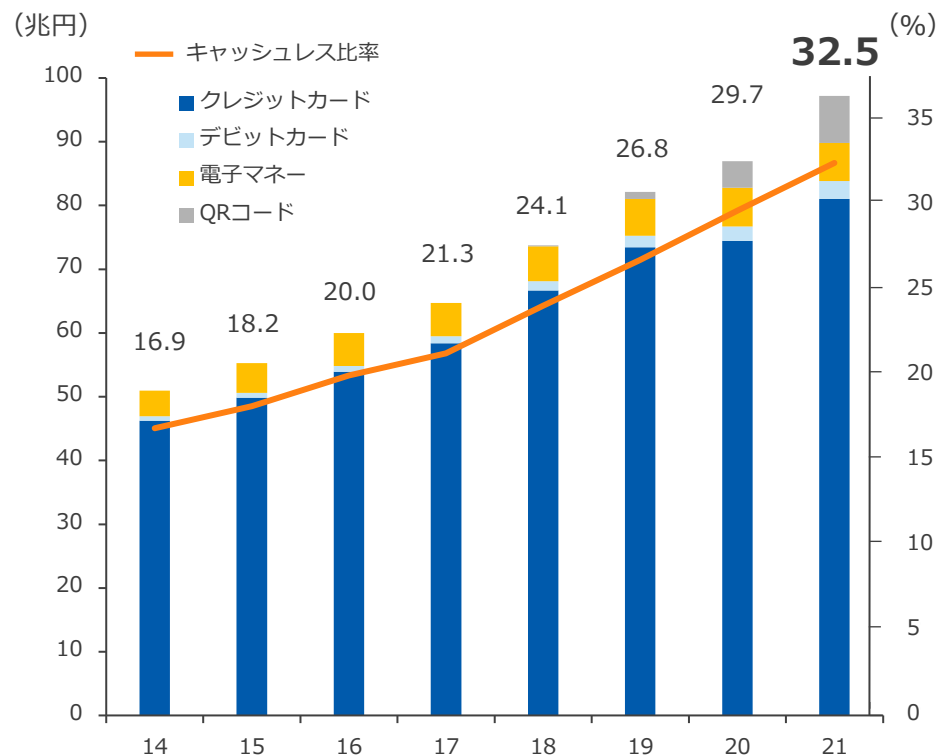
## 2.2.1 狭義EC : BtoC EC市場

### 欧米先進国と比べ低いEC化率・キャッシュレス比率

■ 先進国のEC化率



■ 国内のキャッシュレス比率（対民間最終消費支出比）



※経済産業省「令和3年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」

米国勢調査局「The 3<sup>rd</sup> Quarter 2022 Retail E-Commerce Sales Report」

英国国家統計庁「Retail Sales Index internet sales, December 2022」

※内閣府「国民経済計算」

一般社団法人クレジット協会「日本のクレジット統計」

日本銀行「決済動向」

一般社団法人キャッシュレス推進協議会「コード決済利用動向調査」

## 2.2.2 決済代行業界の特徴

### 高い参入障壁と低位の解約率による安定した業界

#### 高い参入障壁

法規制  
(改正割販法等)

- ・ 継続的な改正による厳格化への対応
- ・ 加盟店管理、セキュリティ強化

決済会社  
ネットワーク

- ・ 日本特有の決済慣行（多様な決済手段）の下、多数の決済会社との取引関係構築（P10参照）

事業規模

- ・ 取引単価が小さく、収益化には事業規模が必要
- ・ 加盟店開拓には、実績・営業力・開発力が必須

決済システム

- ・ 膨大な決済データの安定処理のため、年数十億円規模のシステム投資が必要

#### 低位の解約率

業務特性

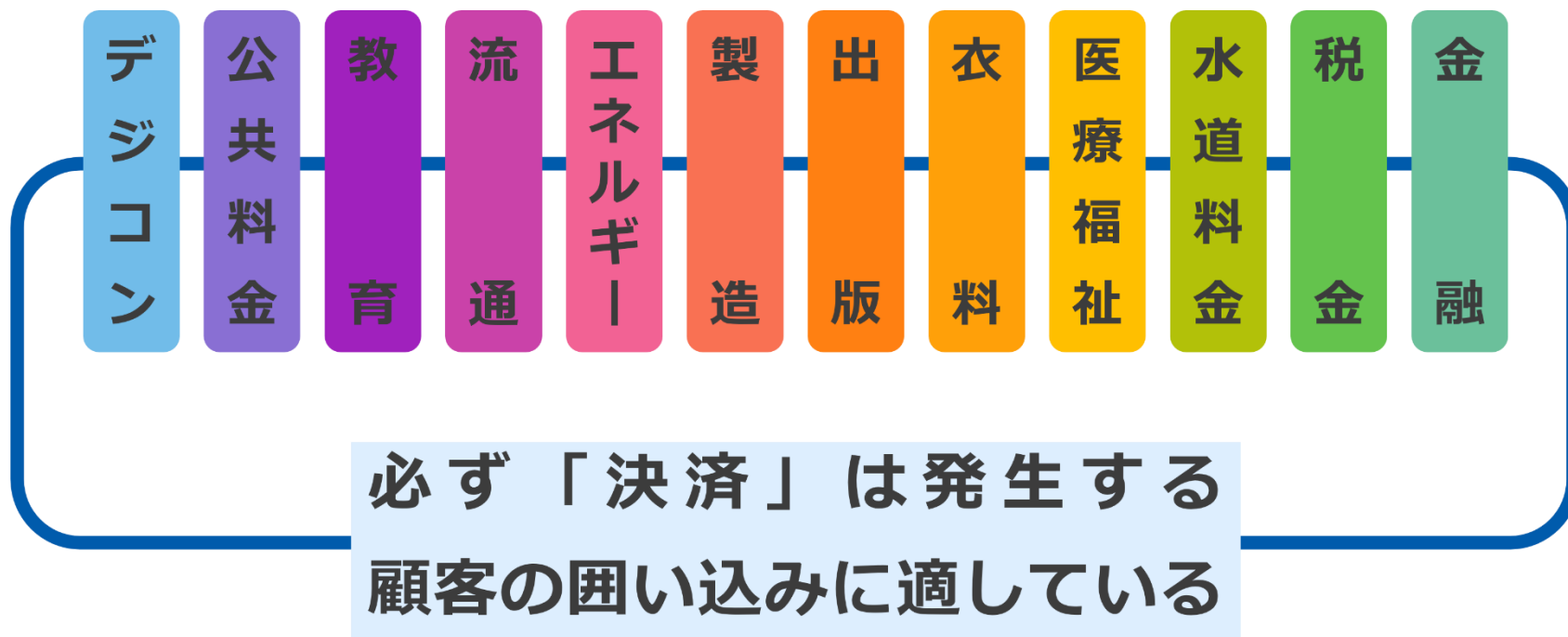
- ・ 決済は止めることが許されない基幹業務
- ・ クレジットカード情報など個人情報の共有

施策

- ・ 固有の業務フローやニーズを踏まえ、上流の開発から関与
- ・ 金融サービスなどニーズの高いサービスを併せて提供

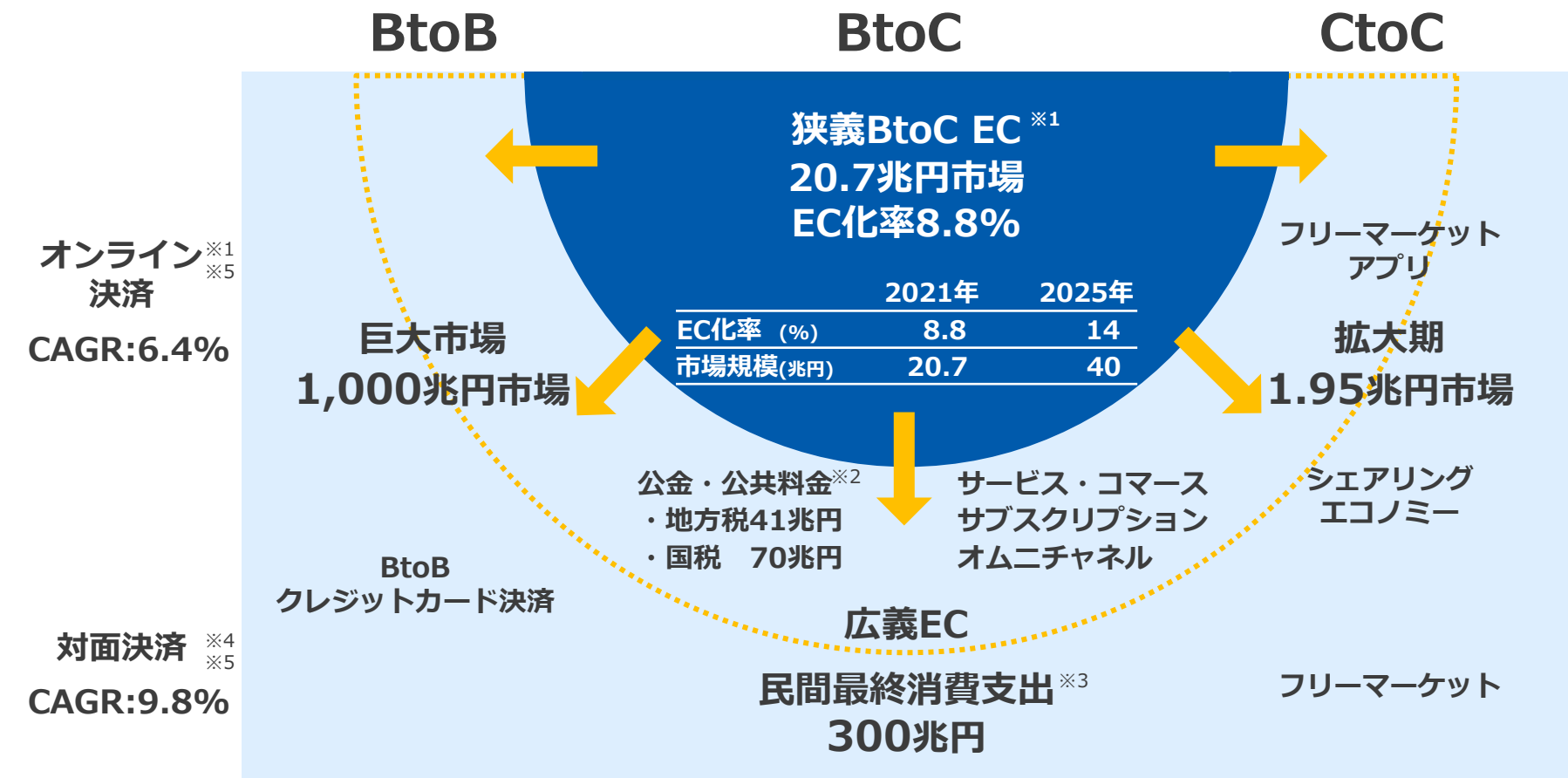
## 2.2.3 決済事業の特徴：クロスインダストリー

決済は購買活動で必要な行為であり、継続性の高いアプリケーション



## 2.3.1 広義EC：事業領域の拡大

日本における決済のキャッシュレス化が当社グループの成長加速に貢献



※1 経済産業省「令和3年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」、2025年は当社予測。

※2 総務省「国税・地方税の税収内訳（令和4年度地方財政計画額）」

※3 THE WORLD BANK "Household final consumption expenditure (current USD)"

※4 一般社団法人キャッシュレス推進協議会「キャッシュレス・ロードマップ2019」、矢野経済研究所「2022年版 国内キャッシュレス決済市場の実態と将来予測」

※5 オンライン決済CAGR：2017年から2021年のオンライン決済市場規模の5年間CAGR、オフラインCAGR：2017年から2021年の対面キャッシュレス市場の5年間CAGR

## 2.3.2 広義EC：公金・公共料金

### 2006年の地方自治法改正期より参入し、当分野のカード決済を開拓

地方公共団体：地方税（自動車税、軽自動車税、固定資産税等）

水道料金、ガス料金、ふるさと納税

国税クレジットカードお支払サイト

国税スマホアプリ納付 等

NHK：放送受信料

2021年度末カード利用率18.1%（前年比+0.6%）\*

電力会社：電気料金支払い等のデジタル化を支援し、

業務の大幅なペーパーレス化を実現

サービスの横展開も着実に進捗

管理費、塾の月謝、駐車場の支払い、給食費などにも  
拡大が続く



※日本放送協会「令和3年度業務報告書」

## 2.4.1 FinTech : 金融関連サービス

### 決済代行会社だからできる金融関連サービス

	<u>サービス内容</u>	<u>関連アセット</u>	<u>ビジネスモデル</u>
✓ 「GMO後払い」/ 「GMO掛け払い」	購入者の入金前に売上金を払込	未収入金	③ フィー ④ スプレッド
✓ 送金サービス/ 「即給 byGMO」※	効率的かつセキュアな 送金・返金処理を実現	前渡金	③ フィー
✓ 海外レンディング/ トランザクション レンディング	成長資金を融資	営業債権及びその他の債権 (短期貸付金)	④ スプレッド
✓ 早期入金サービス	入金日を早め キャッシュフロー改善	前渡金	④ スプレッド
✓ BtoBファクタリング	売掛金の早期資金化	未収入金	④ スプレッド

※「即給 byGMO」：デポジット型と立替型の2種類を提供。立替型のみ前渡金が発生



## 2.4.2 FinTech : 日本の後払い市場

### 成長する日本特有の後払い決済ニーズを捉え、更なる事業拡大を目指す

#### 後払いのニーズ



消費者

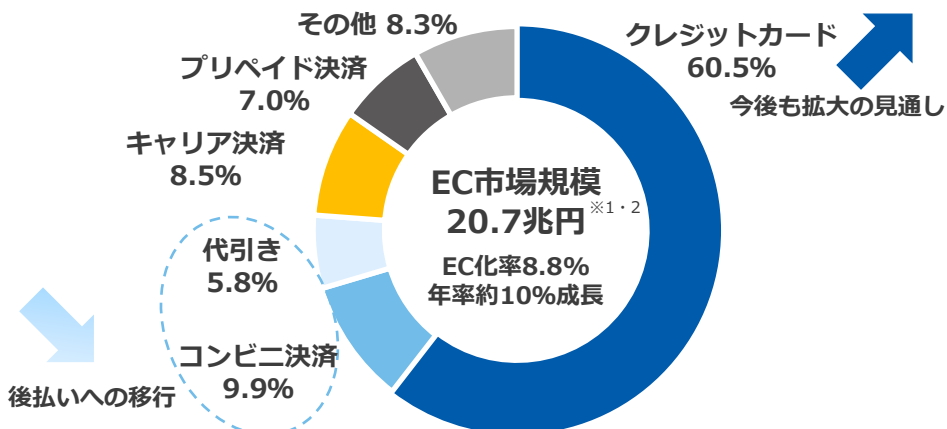
- ・先に購入品を受け取れる安心
- ・現金払い
- ・支出の調整・管理
- ・宅配業者と対面不要



加盟店

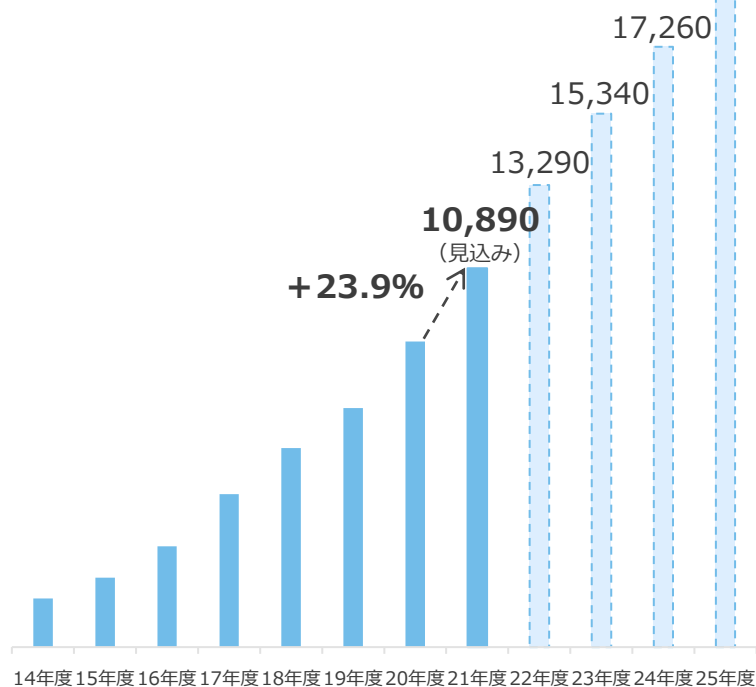
- ・多様な消費者層へのアクセス
- ・販売促進
- ・返品リスクの低減

#### 決済手段別EC市場シェア（金額ベース）



#### 後払い市場の今後の見通し ※3

EC拡大に加え、クレジットカードとの併用、代引き・コンビニ決済（前払い）等に代替する（単位：億円）決済手段として成長



※1 経済産業省「令和3年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」

※2 矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2022年版」

※3 矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2022年版」「国内キャッシュレス決済市場の実態と将来予測 2019年版」2021年度の数値は見込み、2022～2025年度の数値は予測

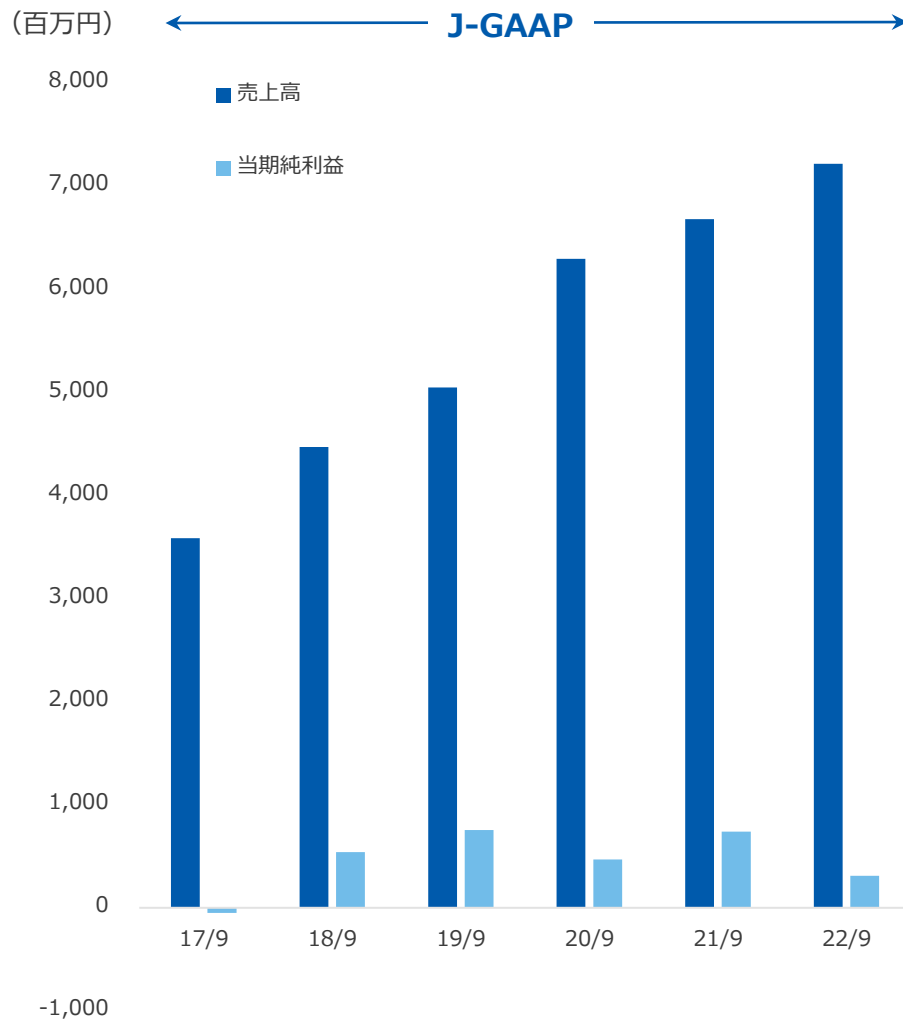
## 2.4.3 FinTech : 当社の後払い事業 (GMO-PS)

### 総合決済プレイヤーとして、上位シェア及び収益基盤を確立

#### 当社後払い事業の特徴

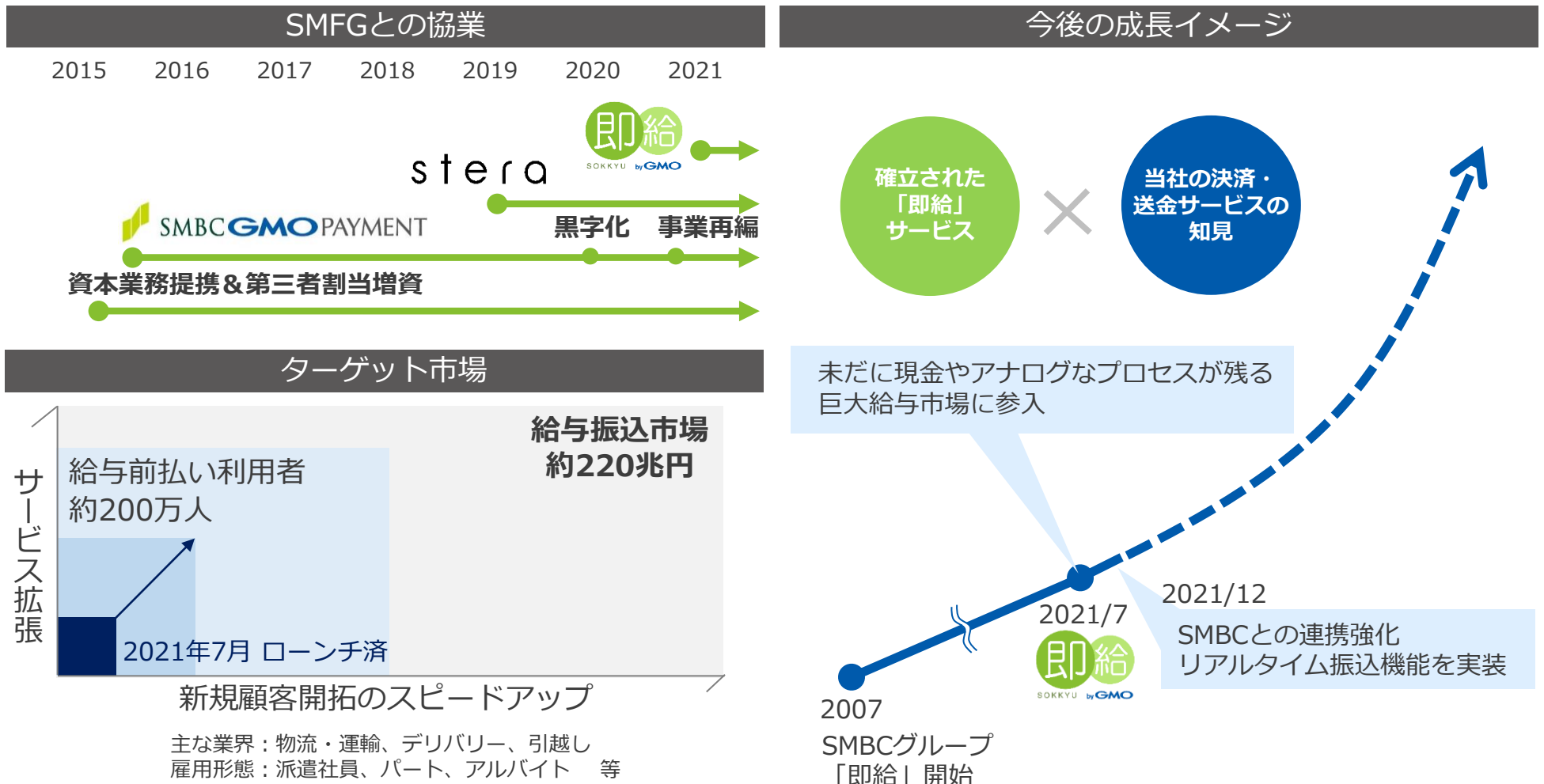
- 大量与信データを利用した機械学習の適用
- 独自の与信データ、回収ノウハウの蓄積に伴う未回収率の低減
- 総合決済プレイヤーとして、ECに必要な全ての決済手段を提供
- BtoB事業者と連携し、事業者向け後払い決済サービスを展開
- SMCCと業務提携し、長期の分割払い、「stera」基盤を活用した対面取引を提供予定

- 決済処理金額拡大とともに、安定的に利益計上
- グループシナジーを創出し、国内上位の事業基盤を構築



## 2.4.4 FinTech : 即給 byGMO

### 220兆円給与市場におけるデジタル・シームレス化のデファクトとなる

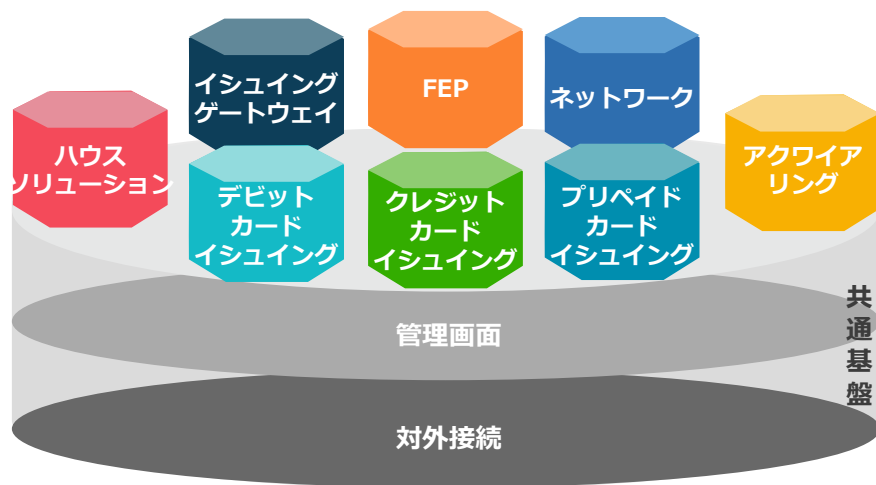


※ SMFG：三井住友フィナンシャルグループ SMBCグループ：三井住友銀行グループ（含む、さくら情報システム）

## 2.5.1 BaaS (Embedded Finance※1)

### 決済ノウハウ・実績を活用し、決済ソリューションを一括サポート

#### ■ GMO-PGプロセッシングプラットフォーム



#### 【背景】

- ・ キャッシュレス・DXニーズの拡大
- ・ 事業会社による金融サービス提供

#### 【提供価値】

事業展開に必要な決済ソリューション・共通基盤を自由に選択可能

#### ■ 革新的なクレジットカード発行システム「H-ALIS」※2



4社協働により2023年10月提供開始  
GMO-PGは開発、FEP提供及び日本国内営業を担う

#### 【背景】

キャッシュレス推進の中で、多彩なクレジットカードをスピーディーに発行したい事業者ニーズの拡大

#### 【提供価値】

- ・ 低コスト・短期間でのクレジットカード発行
- ・ API基盤活用によるスムーズなシステム連携
- ・ 迅速な機能改修

※1 Embedded Finance：埋込み型金融

※2 ヒョンデカード株式会社（HCC）、バンクウェアグローバル株式会社、株式会社エクサ、GMOペイメントゲートウェイ株式会社、H-ALIS：HCCが韓国で提供するクレジット基幹プラットフォーム、FEP：カード会社が外部ネットワークの接続に際し必要となるシステム

## 2.5.2 BaaS/IoT

### 個社を獲得し、サービスを結合し、インフラ化を目指す

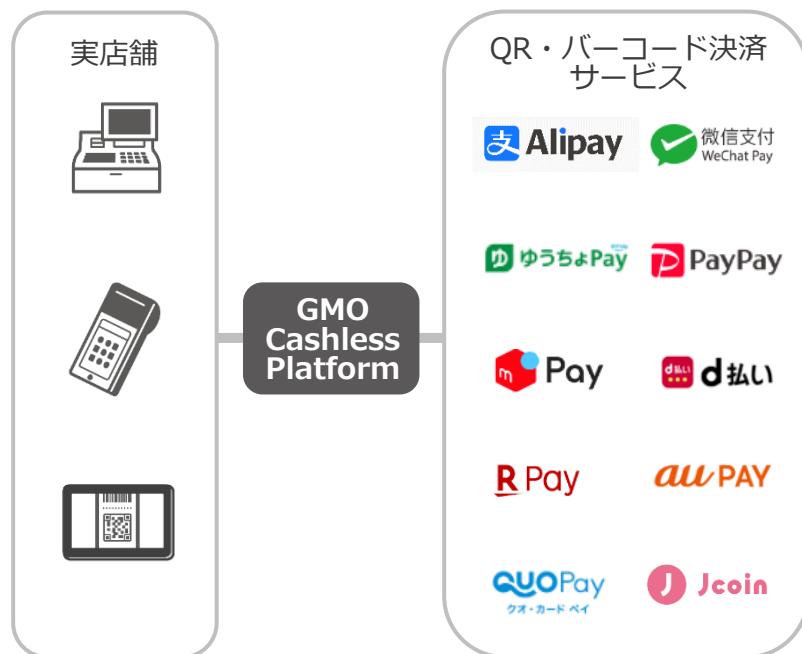
#### ■ 銀行Pay

金融機関向けに即時に口座引き落とし等の支払いが可能なスマホアプリのシステムを提供



#### ■ GMO Cashless Platform

実店舗向けキャッシュレスソリューション、各種QR・バーコード決済サービスを一括提供、今後対応するキャッシュレス手段を拡大予定



# 2.6.1 対面IoT：対面決済市場

## キャッシュレス化&アライアンス戦略の展開により、更なる事業規模の拡大へ

### ■ 対面決済

店舗における決済の端末等をグループ会社であるGMOフィナンシャルゲートが提供

### ■ 対面決済市場の成長要因

- ・新しい生活様式等の外部環境の変更によるキャッシュレス需要

モバイル型決済端末



組込型EMV端末<sup>※</sup>



### ■ stera

新たな決済プラットフォームの提供によって  
様々な決済にワンストップで対応






※ EMV：VisaとMasterCardが策定したICチップ搭載クレジットカードの統一規格

### ターゲット：無人決済市場

物販機	券売機	コーヒーマシーン
精算機 (ゴルフ場/ホテル)	自動販売機 (飲料/食品)	EVチャージャー 駐車場精算機
セルフレジ	コインランドリー	ガチャ

## 2.6.2 GMOフィナンシャルゲート株式会社 会社概要

■ 会社名	GMOフィナンシャルゲート株式会社（東証グロース 4051）	
■ 設立年月	1999年9月	
■ 所在地	東京都渋谷区道玄坂1-14-6 ヒューマックス渋谷ビル（受付7階）	
■ 資本金	1,618百万円（2022年12月31日現在）	
■ 主要株主	GMOペイメントゲートウェイ株式会社（ほか）	
■ 役員構成	代表取締役社長 杉山 憲太郎 取締役 青山 明生（営業本部本部長） 取締役 福田 知修（システム本部本部長） 取締役 玉井 伯樹（管理本部本部長） 取締役 小出 達也（GMOペイメントゲートウェイ株式会社 上席専務執行役員） 社外取締役 嶋村 那生 社外取締役 浅山 理恵 社外監査役 長澤 孝吉 社外監査役 小澤 哲 監査役 飯沼 孝壮（税理士法人飯沼総合会計代表社員 公認会計士）	
■ 監査法人	EY新日本有限責任監査法人	
■ 主な連結子会社	GMOカードシステム株式会社 持分100% GMOデータ株式会社 持分51.0%（三井住友カード(株)49.0%）	 
■ 事業内容	クレジットカード、デビットカード、電子マネー等のキャッシュレス決済インフラ提供事業	

（2023年2月14日時点）

# 2.7.1 グローバル：海外戦略

## 海外最新知見活用し、成長する東南アジア・インド市場に注力

### ■ 事業展開エリア



### ■ 戦略

#### 決済代行業業

投融資先と提携し、現地決済サービスの提供

#### 金融関連事業

北米・アジアの有力FinTech企業に成長資金を投融資

- ・最新知見の獲得・還元・移転
- ・投融資先との関係強化

決済代行業業

金融関連事業

### ■ 投融資先 ※1

国	主な投資実績	主な融資実績
		※2
	※2	
	※2	※2  ※2

※1 GMOペイメントゲートウェイ及びGMO Global Payment Fundの投融資先  
 ※2 売却済み/回収済みの案件



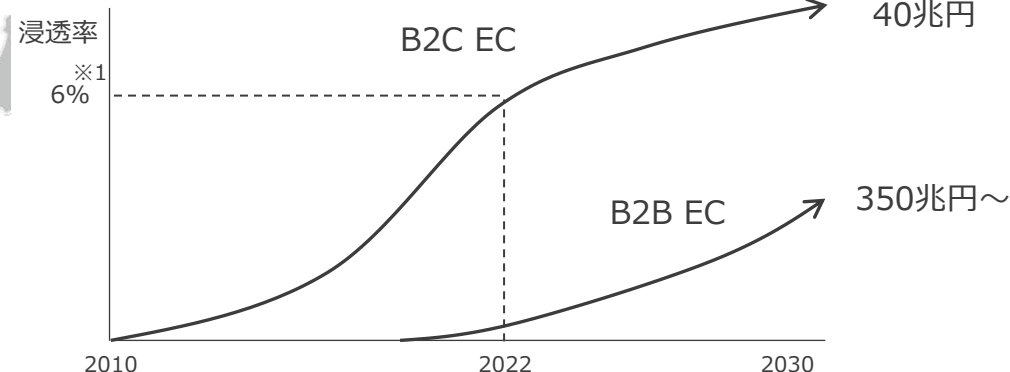
# 2.7.2 グローバル：海外投資戦略 20年のトレンド

## インド・太平洋圏の重要機能のシフト：決済代行者からクレジット提供者へ

主要海外投融資先ポートフォリオ

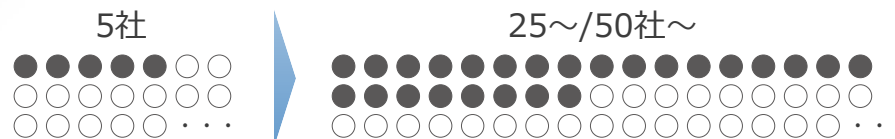


東南アジア・インドにおける市場の拡大



高成長FinTechの出現

当社が支援するFinTechユニコーン数の増加イメージ



※1 両地域の民間最終消費支出及びB2CEC市場化率をもとに算出 ※2 両地域のGDP予想及び日米のB2C/B2BEC市場化率等より当社推計

# 2.8.1 サステナビリティ

## サステナビリティ実現に向けた取り組みを統合報告書に掲載

### 「第29期統合報告書」

URL : [https://www.gmo-pg.com/corp/newsroom/pdf/20221219\\_gmo\\_pg\\_ir\\_integrated\\_report.pdf](https://www.gmo-pg.com/corp/newsroom/pdf/20221219_gmo_pg_ir_integrated_report.pdf)

### 具体的な取り組み（一部抜粋）

EC化率向上、キャッシュレス化推進による  
便利・快適な社会の実現

金融包摂FinTech企業への  
インパクトファイナンスを推進

ペーパーレス化等、DX支援を通じた  
加盟店の脱炭素化支援

実質再生可能エネルギーによる決済処理開始により  
GHG排出量（Scope1+2）を84%削減（前年比）

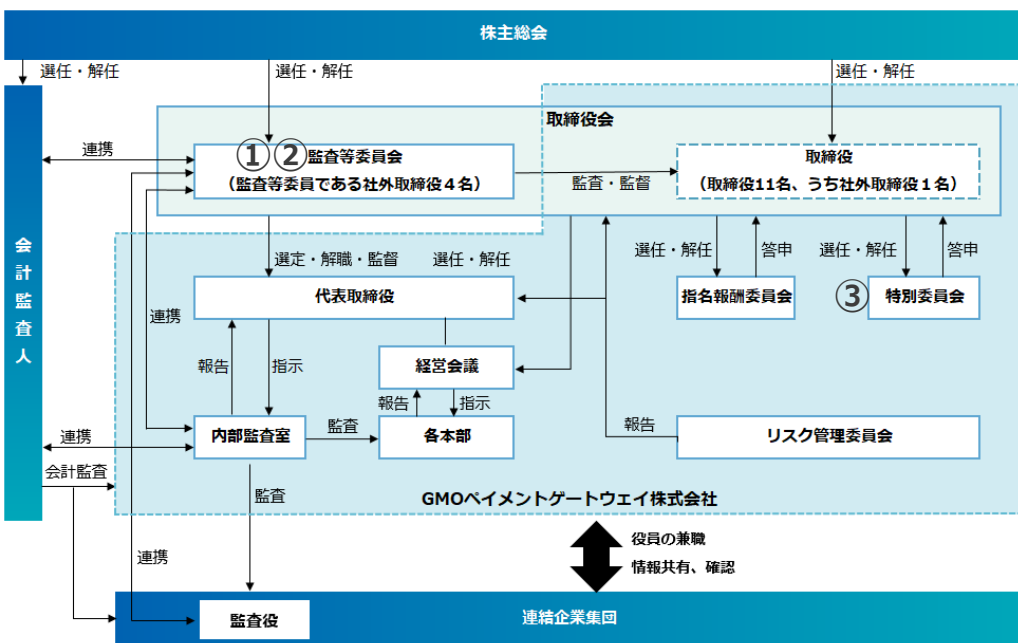
「働きがいのある会社」調査で  
8回連続ベストカンパニーに選出

The screenshot displays the 'Sustainability' section of the 2022 Integrated Report. It features a header 'サステナビリティ経営' (Sustainability Management) and a main theme 'DX・脱炭素化支援により、社会の進歩発展を牽引 クレジット × デジタル技術で社会的包摂を推進' (Leveraging DX and decarbonization support to drive social progress and development, promoting social inclusion with credit and digital technology). The report is organized into four main pillars: Digital Inclusion, Financial Inclusion, Environmental Contribution, and Human Resource Contribution. Each pillar includes specific initiatives, such as 'Digital Inclusion' (EC rate improvement, cashless payment promotion) and 'Financial Inclusion' (support for FinTech companies, impact financing). The report also highlights achievements like 'Paperless payment' and 'Renewable energy'.

## 2.8.2 ガバナンス体制の強化

### 取締役会の監督機能強化による、中長期的な企業価値向上の実現

コーポレート・ガバナンス体制図



① 監査等委員会設置会社への移行

② 社外取締役比率が3分の1に上昇

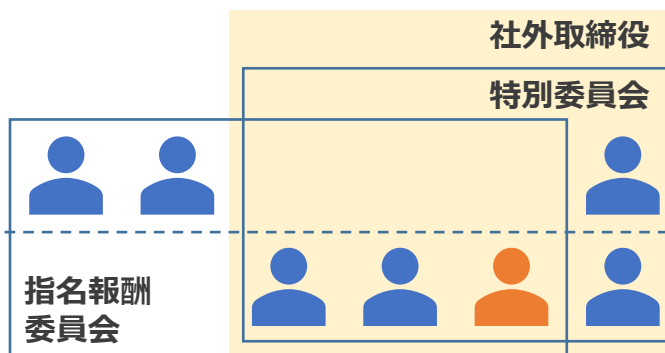
③ 特別委員会の設置

- ・ 社外取締役5名で構成
- ・ 少数株主の利益保護の強化
- ・ 支配株主と少数株主の利益が相反する重要な取引・行為について審議・検討を行い、取締役会に答申


取締役



監査等委員である取締役



男性  
女性



1	事業概要	p.4
2	注力分野	p.18
3	<b>参考資料</b>	<b>p.37</b>

# 3.1 会社概要 (2023年1月1日時点)

- 会社名  
GMOペイメントゲートウェイ株式会社 (東証プライム 3769)
- 設立年月 1995年3月
- 所在地  
フクラスオフィス (本社)  
東京都渋谷区道玄坂1-2-3 フクラス (総合受付15階)  
ヒューマックスオフィス  
東京都渋谷区道玄坂1-14-6 ヒューマックス渋谷ビル (受付7階)
- 資本金 133億23百万円
- 主要株主  
GMOインターネットグループ株式会社、株式会社三井住友銀行、  
相浦一成 ほか
- 監査法人  
EY新日本有限責任監査法人
- 主な連結子会社  
GMOイプシロン株式会社、GMOペイメントサービス株式会社、  
GMOフィナンシャルゲート株式会社、  
GMO-Z.COM PAYMENT GATEWAY PTE. LTD. (シンガポール) など
- 主な持分法適用会社  
SMBC GMO PAYMENT株式会社、  
GMOデータ株式会社など

- 役員構成  
取締役会長  
代表取締役社長  
取締役副社長  
取締役副社長  
取締役  
取締役  
取締役  
取締役  
取締役  
取締役  
社外取締役  
社外取締役・監査等委員  
社外取締役・監査等委員  
社外取締役・監査等委員  
社外取締役・監査等委員  
上席専務執行役員  
上席専務執行役員  
専務執行役員  
専務執行役員  
常務執行役員  
常務執行役員  
常務執行役員  
上席執行役員  
上席執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員  
執行役員

- 熊谷 正寿  
相浦 一成  
村松 竜  
磯崎 覚  
安田 昌史  
山下 浩史  
川崎 友紀  
新井 輝洋  
稲垣 法子  
島原 隆  
佐藤 明夫  
吉田 和隆  
岡本 和彦  
外園 有美  
甲斐 文朗  
杉山 真一  
小出 達也  
久田 雄一  
三谷 隆  
村上 知行  
吉井 猛  
向井 克成  
吉岡 優  
田口 一成  
稲山 享伸  
伊藤 慎悟  
井ノ口 美徳  
戸澤 宏文  
畑田 泰紀  
犬童 淳平  
増田 克伊  
吉田 剛土  
中山 悠介  
西岡 修
- (企創戦本部 担当)  
(CS本部 担当)
- (システム本部 担当)  
(IVP本部 担当)  
(IVP本部 担当)  
(システム本部 担当)  
(GMO-EP 代表取締役会長)  
(IVP本部 担当)  
(GMO-PS 代表取締役社長)  
(SGP 代表取締役会長)  
(GMO-EP 社長)  
(CS本部 担当)  
(IVP本部 担当)  
(CS本部 担当)  
(企創戦本部 担当)  
(IVP本部 担当)  
(CS本部 担当)  
(GMO-PS 常務取締役)  
(システム本部 担当)  
(企創戦本部 担当)  
(IVP本部 担当)

※企創戦本部：企業価値創造戦略統括本部、CS本部：コーポレートサポート本部、  
IVP本部：イノベーション・パートナーズ本部、SGP：SMBC GMO PAYMENT株式会社

## 3.2 主な連結子会社及び持分法適用会社（IFRS基準）



# 3.3 GMO医療予約技術研究所

## 病院・クリニックの業務効率化を実現する予約管理システムを提供

### ■ 「メディカル革命 byGMO」

Web予約機能に加えて、受付機能、電子カルテ連携機能、キャッシュレス決済機能などをシームレスに提供 ※1



### ■ 「おまとめ診察券 byGMO」

複数病院・クリニックの診察券を、1つのアプリに集約  
受付業務の効率化、キャンセル率の改善に貢献

### その他、様々な診療科に応じたサービスを展開

- ・ 「メディカル革命 byGMO FOR動物病院」
- ・ 「Dentry byGMO」

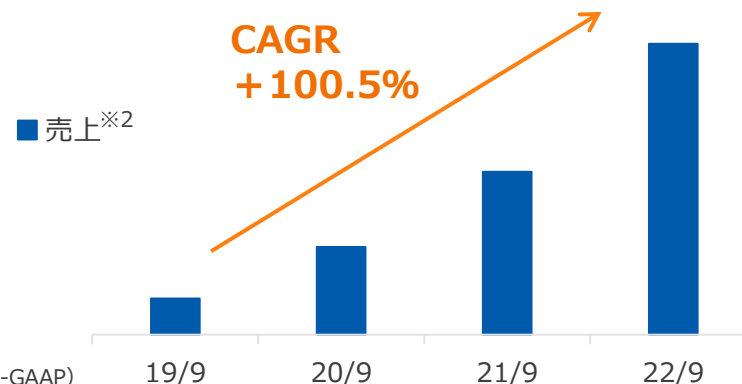
※1再来受付機、電子カルテ連携、キャッシュレス決済はオプション機能として提供 ※2 売上は日本基準 (J-GAAP)

会社名 GMO医療予約技術研究所株式会社  
(GMO Medical Reservations Technology CO., Ltd.)

設立年月 2016年4月11日

親会社 GMOイプシロン株式会社 (持分：100%)  
(2018年8月 グループジョイン)

所在地 東京本社：東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号  
ヒューマックス渋谷ビル7F  
浜松支社：静岡県浜松市中区大工町125  
シャンソンビル浜松6F



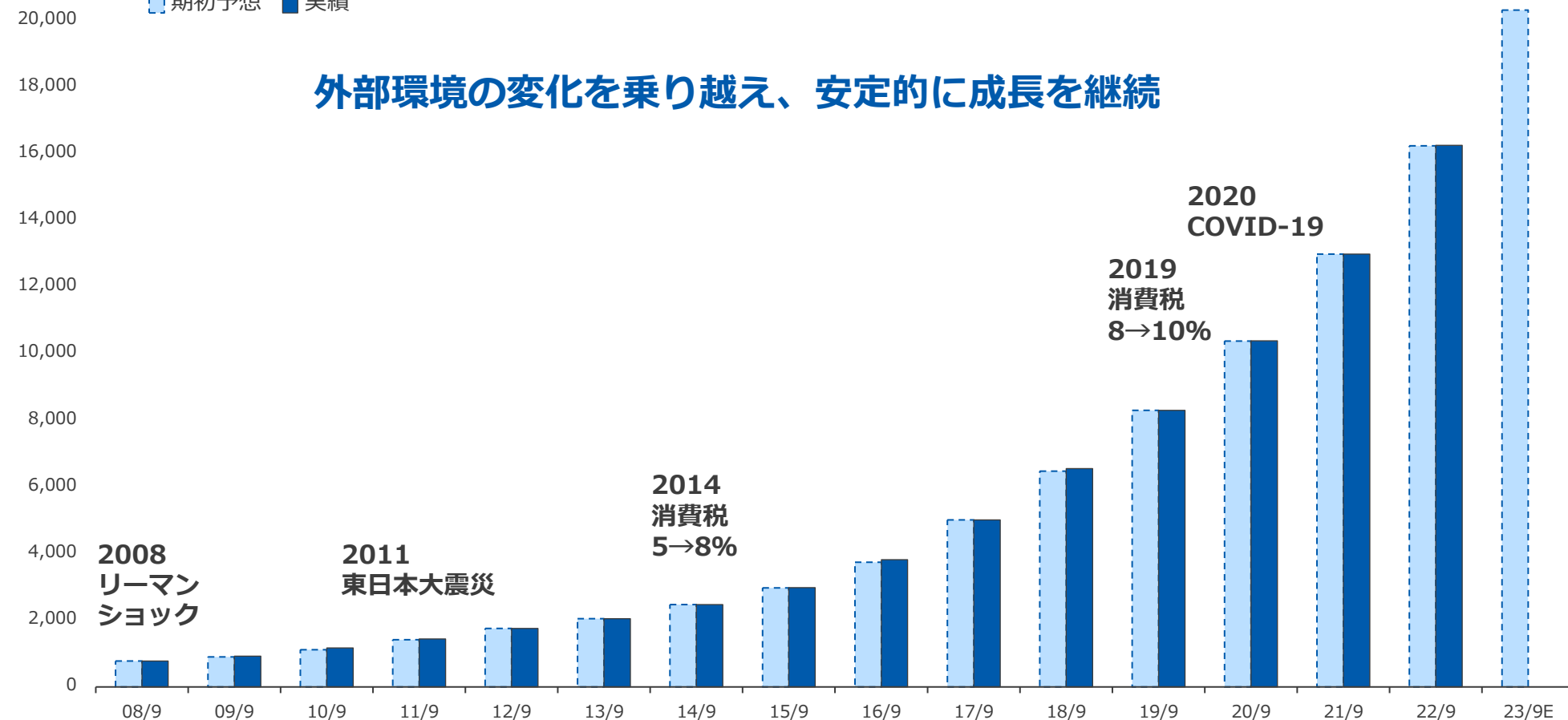
## 3.4 継続的な業績目標の達成

### 予見可能性の高い収益構造、規律ある業務運営により業績目標を達成

営業利益推移\*

(百万円)

■ 期初予想 ■ 実績



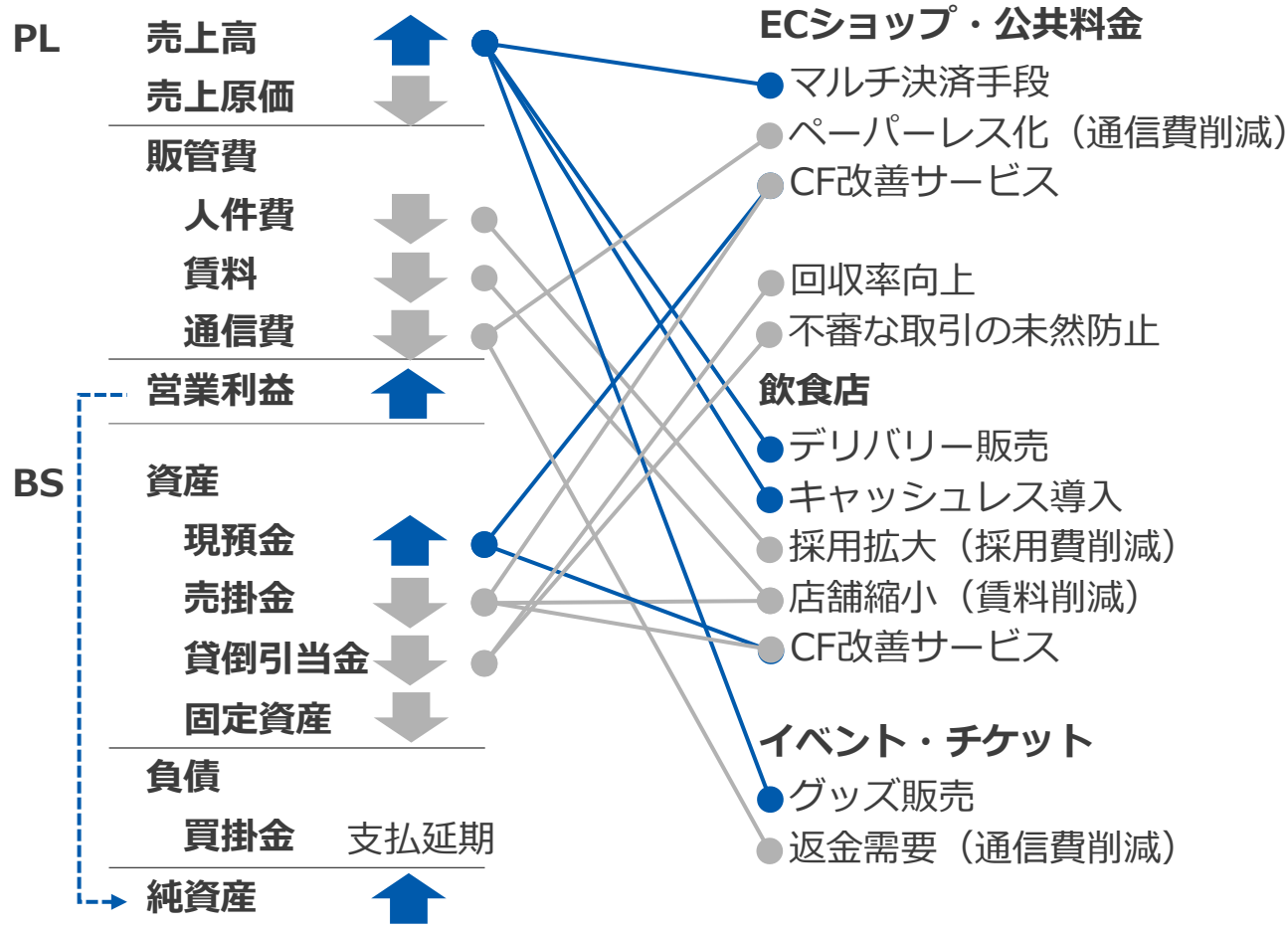
\* 18年9月期期初予想について、国際会計基準(IFRS)の任意適用に伴い新たに設定した業績予想。19年9月期以前について、MK社連結除外前における基準(継続事業+非継続事業)における営業利益



# 3.5 顧客のPL・BSを好転させるDX支援サービス

## 多様な顧客ニーズに応えるサービスラインナップ

### ■顧客ニーズとPL・BS変化



### 当社DX支援サービス

PGマルチペイメントサービス  
 東京電力EP「SMS選択払い」  
**Cycle byGMO**  
 GMO BtoB早払い  
 請求書スマホ支払い  
 不正防止サービス（Sift）

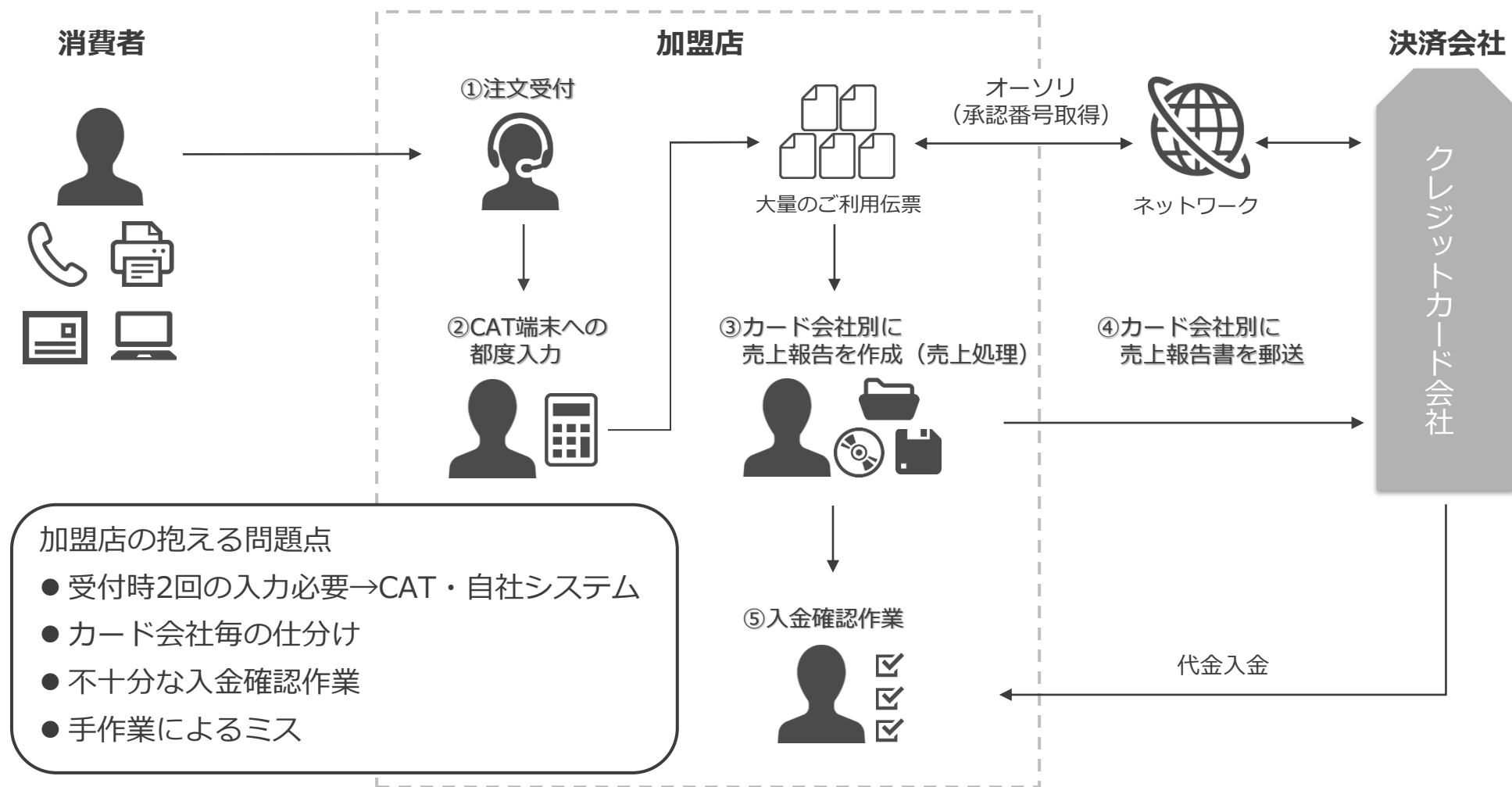
オンライン販売支援  
**GMO Cashless Platform**  
**即給 byGMO**

電子請求書早払い  
 GMO BtoB売掛保証

オンライン販売支援  
 送金サービス（返金利用）

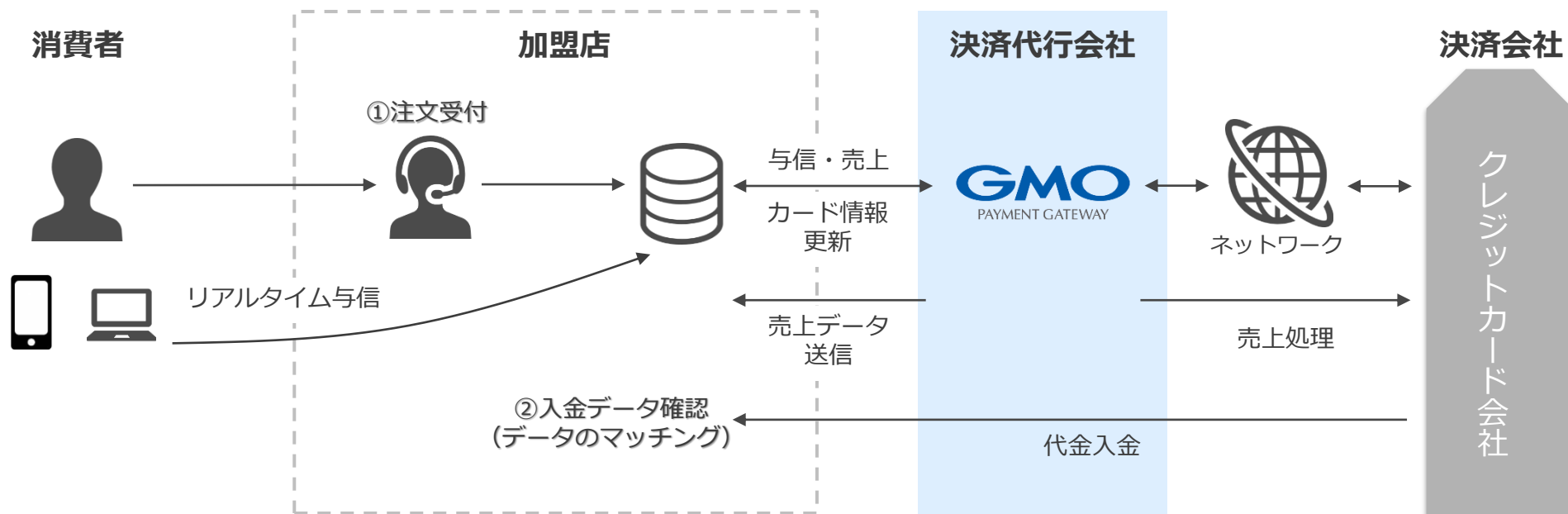
# 3.6.1 クレジットカード決済代行サービスとは（1）

## 黎明期のECにおけるクレジットカード決済の課題点



## 3.6.2 クレジットカード決済代行サービスとは（2）

### カード決済業務が効率よく実現出来る決済代行サービス



黎明期、ECのクレジットカード決済は加盟店とカード会社間においてオフライン処理が行われていたため、各社互いに業務負荷が発生していた。そこで問題の解決策として決済代行会社が設立され、仲介に入ることにより、加盟店とカード会社の業務負荷が軽減され現在に至る。